

## 11 アニメ絵巻をつくる

### ― 鳥獣戯画、北斎漫画からアニメへ ―

#### 1 学習目標

日本のアニメをテーマに、その歴史的背景となる絵巻物やその作家について学ぶことを通して、日本の伝統や文化がどのように生まれてきたかを学習する。また、体験を通してアニメーションや絵巻の原理を理解する。

#### 2 学習内容

- (1) 鳥獣戯画と北斎漫画
- (2) 絵巻物の制作
- (3) 作品発表・講評会

#### 1 「アニメ」の歴史

現在、「アニメ」(Japani nation)と呼ばれ世界的に高い評価を得ている日本のアニメーション。その日本のアニメの起源は「絵巻物」にさかのぼることができるという説があります。

日本の代表的絵巻「鳥獣戯画」や江戸時代の「北斎漫画」をヒントに、アニメーションの表現や日本の平面的な表現の面白さについて考えてみましょう。

#### 2 絵巻

巻物形式の絵画作品のことを絵巻と呼びます。内容は物語や伝記などストーリー性のあるものです。ストーリー展開には大きく二つの形式がみられ、一つは、時間と場所を描いた絵と文が段落ごとに区切られて構成されたもの、もう一つは、変化し展開する光景を連続的に描写していくものです。

また、絵巻は一般的には右から左へと時間の流れにそって描かれています。両手で持つて、広げては巻きながら読んでいくので、およそ六十センチほどの画面で一場面が構成されています。

絵巻の起源は、四世紀初めの中国の図巻です。日本では奈良時代に制作された「過去現在因果経絵巻」が最も古いものですが、これは中国の原本を模倣して描かれました。日本で独自に創作された絵巻は、平安時代の「三宝絵」が最初であると言われています。この時代には「竹取物語」「伊勢物語」などもつくられました。当時の絵巻は、絵と詞書を画家と書家が担当



「鳥獣戯画模写」(藤井聡子制作)

し、装丁や装飾には様々な工夫が施されました。現存する十二世紀の「源氏物語絵巻」に代表されるように、絵巻は文学、絵画、書道、工芸をあわせた総合芸術作品です。

平安末期に鳥羽僧正覚猷（とはそうじょうかくゆう）によって描かれたと伝えられる「鳥獣戯画」では、猿・兔（うさぎ）、蛙（かえる）たちが擬人化され、相撲や年中行事などを繰り広げていきます。「鳥獣戯画」には文字は記されず、墨の濃淡を使って絵だけで描かれています。また、他の絵巻と違って左から右へと時間が流れていきます。このような独創的な表現から、「鳥獣戯画」は日本のアニメーションのルーツとも言われています。

### 3 北斎漫画にみるアニメの歴史

江戸時代、葛飾北斎によって描かれた「北斎漫画」は、河童（かっぱ）や妖怪（ようかい）などのキャラクターづくりや庶民の生活の巧みな描写など現在のアニメーションに大きな影響を与えています。また、葛飾北斎の作品は、北斎漫画だけでなく浮世絵として、モネやゴッホら印象派の画家たちに大きな影響を与え、文化の創出といった点から大きく評価できる日本作品です。

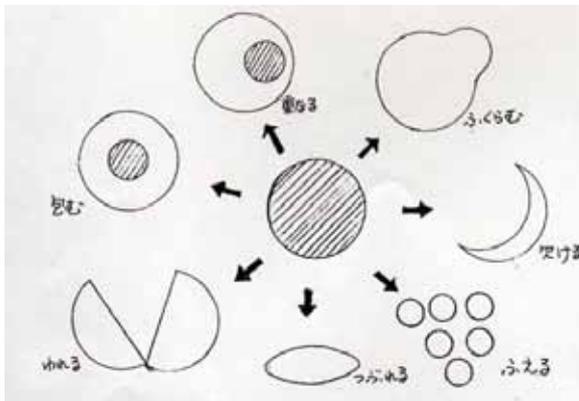
現在、日本のアニメーションが「アニメ」と呼ばれ世界で高く評価されているのは、北斎漫画と同様に、日本人の独特の発想や構想などの創造力を世界の人たちが認めているからです。

#### 学習課題1 キャラクターをつくりましょう

- (1) 、 、 、 など簡単な形からキャラクターをつくりましょう。
- (2) 形の変容はどのように表現できるでしょうか。変容を表す言葉を挙げてみましょう。

例：膨らむ、欠ける、分裂するなど

- (3) 変容を表す言葉にそって形を変化させ、キャラクターを考えてみましょう。
- (4) キャラクターに名前を付けましょう。



〔生徒作品例〕



〔制作風景〕

学習課題2 物語を考え、絵巻物をつくってみましょう

- (1) グループで物語をつくってみましょう。  
各自がつくったキャラクターを持ち寄って、物語のアイデアを出し合ってみよう。

アイデアメモ

--

- (2) 物語の構成をまとめ、絵巻物をつくるための役割を決めよう。

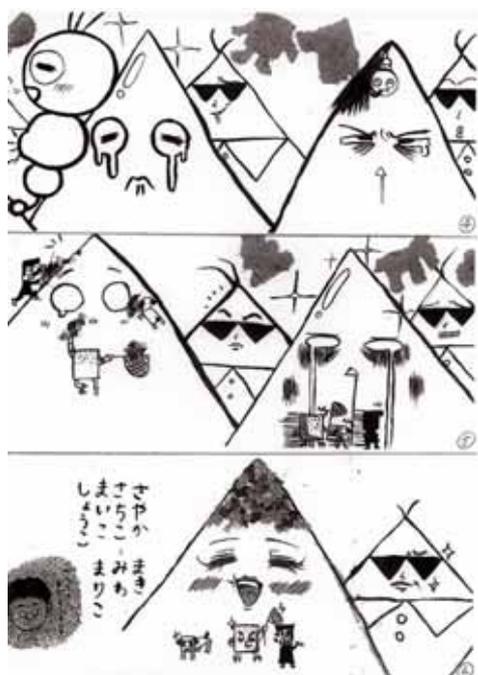
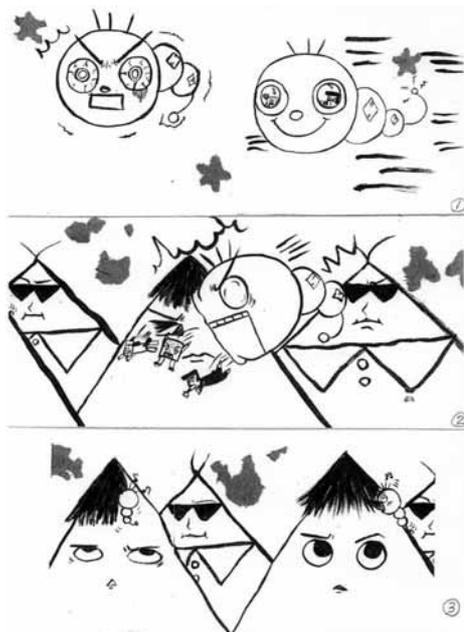
ストーリーをまとめよう。

監督、作画、装丁デザインなど、アニメ絵巻をつくる役割分担を決めよう。

3	2	1
6	5	4

- (3) 装丁して、絵巻物を完成させよう。

学習課題3 絵巻物を発表・講評しましょう



「生徒作品例」

発表・講評の記録

【発展学習】

- 1 絵巻について、次のことを調べてみましょう。
  - (1) 絵巻の歴史
  - (2) 装丁の形式と材料
- 2 世界のアニメーションを鑑賞しましょう。そして日本のアニメーションと比較してみましょう。
- 3 コンピュータなど映像メディア機器を使ったアニメーションづくりに挑戦しましょう。

《参考文献・資料等》

- ・『日本の美と文化』第七巻「絵巻と物語」講談社、昭和五十七年（一九八二）
- ・跡見学園女子大学生

## 12 モダン都市東京の生活文化

### 1 学習目標

大正期から昭和初期に東京で開花した「モダン」という言葉で総括される近代の生活文化について学ぶ。こつした生活文化を大都市東京の構造と関係付けてとらえると同時に、現代文化の源流としても理解する。あわせて、主に都心部に残る戦前の都市景観を把握し鑑賞する。

### 2 学習内容

- (1) 東京の市政の変化と「大東京」
- (2) 郊外住宅地の住文化
- (3) オフィス街の景観
- (4) 繁華街の都市文化
- (5) 都市の光と闇

### 1 「大東京」の時代

現在の東京と比較すると江戸ははるかに小さな町でした。江戸を引き継いだ明治初期の東京も小さな町で、明治十一年（一八七八）に設定された「東京十五区」は、現在の「東京二十三区」の約七分の一の面積しかありませんでした。

しかし、東京の市街地は急速な近代化によって拡張し、二十世紀を迎える頃には現在の山手線の外側にまで延びていました。大正十二年（一九二三）の関東大震災で東京は大打撃を受けましたが、復興への取組がほぼ完成した昭和初期には再び拡張し始めます。そこで、昭和

七年（一九三二）には東京の行政区画が見直されて「三十五区」に変更されました。当時、世界第二位の人口となった「大東京」が出現したのです。

なお、この三十五区は昭和二十二年（一九四七）に統合分割されて現在の二十三区となりました。

こつした都市としての勢いを象徴するように、一九二〇～三〇年代の東京には華やかな都市文化が開花しました。この新しい文化の担い手となったのは、郊外の住宅地に暮らし、電車を使ってオフィスに通勤し、夜や週末には娯楽に興じるサラリーマンたちでした。中でも、「モボ」（モダンボーイ）や「モガ」（モダンガール）と呼ばれた若い世代は、銀座や浅草を闊歩（かっぱ）し、その名のとおりモダンな文化の担い手となりました。そして、このときに東京で生まれた文化は戦後日本中に広まり、現代の日本文化の基盤となったのです。



数寄屋橋交差点付近の都電  
昭和29年当時

## 学習課題1 東京の市政の移り変わりについて調べましよう

東京都には、市町村以外に、「区」という制度があります。この東京の区政は明治以後、何度か大きな変更がありました。その変化の内容とどうして変化したのかについて調べてみましょう。

## 2 郊外の暮らし

明治中期以前には、多くの人にとって住まいと職場は同じ場所でした。しかし、二十世紀を迎えるころから、職場と切り離された専用住宅地としての「郊外」が発達していきます。

郊外という存在は、東京だけでなく世界中で発生しました。最初に産業革命を達成したロンドンでは、乱立する工場によって環境が悪化したため、人々は市街地から脱出し、田園風景が残る近隣に移り住んだのです。この自然に囲まれた住宅地という理想は「田園都市」という用語を通じて日本に紹介され、多くの郊外住宅地が建設されました。

郊外が発達した背景には交通網の充実があります。「省線」と呼ばれた国有鉄道（戦後は「国鉄」と呼ばれ、現在の東日本旅客鉄道にあたる）と私鉄に加え、鉄道馬車から発達した「都電」（路面電車が山手線内を網羅するようになり、昭和二年（一九二七年）には東洋初の地下鉄が上野と浅草の間に開通しました。人々はこうした鉄道網を使って気軽に移動できるようになったのです。

鉄道を使って東京の中心地と結ばれた郊外住宅地をみてみましょう。大正十二年（一九二三）から分譲を始めた大田区の田園調布は、イギリスの田園都市の思想をよく受け継ぎ、駅を中心とした放射状と環状の道路を組み合わせた街区には、緑あふれる変化に富んだ景観がつくられました。郊外住宅地には和風の住まいが多かったのですが、

洋風の住まいが見られるようになります。田園調布から「江戸東京たてもの園」に移築された洋風の住まいは、暖炉を備えソファなどの洋風家具に囲まれています。

こうした郊外住宅地と洋風の住まい方は、一九二〇～三〇年代に始まり、戦後本格的に普及していった都市文化なのです。



「田園調布の家（大川邸）」の外観  
土木技師・大川栄氏が大正14年（1925）に建設（江戸東京たてもの園）



「田園調布の家」の居間

## 学習課題2 交通機関の整備について調べましよう

東京近郊には交通網がくまなく巡らされています。こうした交通網は突然できたものではありません。百年以上の時間をかけて次第に整備されたものです。そこで、主要な交通機関がいつできたのか、どのような順序で延びていったのかを調べて、地図に書き込んでみましょう。

### 3 オフィス街の姿

モダンな都市文化の担い手は、都心のオフィスに通うサラリーマンとその家族でした。日本で初めての本格的なオフィスビルは明治二十七年（一八九四年）に丸の内で作られました。その後、丸の内には続々とオフィスビルが建てられ、「ロンドン二丁目」と呼ばれるような日本離れした景観となります。

江戸時代、丸の内周辺は「大名小路」と呼ばれ、幕府の要職に就いた大名の屋敷がおかれていました。明治維新後には軍用地となりましたが、明治二十三年（一八九〇）に民間に払い下げられ、東京を代表するオフィス街となったのです。

この丸の内オフィス街の玄関口に当たるのが赤煉瓦（あかれんが）で有名な東京駅です。この駅舎は大正三年（一九一四）に完成し、丸の内だけでなく東京の顔ともいえる存在です。



東京駅舎

東京駅から皇居方面に出ると、丸の内のオフィス街が広がります。この一画では、昭和初期から現在までに建てられた様々な時代のオフィスビルを見ることが出来ます。皇居のお堀側から眺めると、古い時代のビルの高さがそろっていることに気付きます。それは、大正八年（一九一九）に制定された建築法規で、高さが百尺（約三十メートル）に制限されたためですが、整然とした都市の美観を創り出しています。

丸の内地区のオフィスビルの中には、昭和九年（一九三四）に建てられ、現在では重要文化財に指定されているビルのように、ギリシア・ローマ時代の建築のような壮麗な外観をもつものもあります。



和光本館（銀座）  
昭和7年（1932）竣工

#### 学習課題3 都心に残る昭和の風景を探しましょう

東京には一九二〇～三〇年代に建てられた建築物が各地に残っています。建築物の背景に当たる風景全体は変化していても、時代の生き証人ともいえる建築物を訪れて、当時の雰囲気想像してみましょう。そして現在の建築物との違いを見付けてみましょう。

#### 4 にぎわいの場

モダンな都市文化を代表する場所は、なんといつてもにぎわいの場、繁華街です。そして、この時期を代表する東京の繁華街は銀座と浅草でした。モボやモガにとつて銀座という町は特別な意味がありました。消費文化の最先端をはいる町だったからです。海外の珍しい品物はまず銀座から入ってきました。また、流行のファッションやヘアスタイルなどもこの町が発信源となりました。これといった目的をもたずに銀座をブラブラするという意味の「銀ブラ」は、銀座から発信される流行を直接感じるという意味で最大の娯楽だったのです。

銀座には、洋服や洋品を扱うしゃれた店や、舶来雑貨を扱う専門店、あるいはダンスホールやカフェ・レストランといった飲食店から、クラブやバーなどまで様々な店舗が軒を連ねていました。しかし、最もたくさんの人々を集めたのは銀座から日本橋に向かう間に立地していたいくつかの「デパート」です。和服のみを扱っていた江戸時代の呉服屋は、フランスやアメリカのデパートメントストアの影響から、取り扱う品物の種類を増し、土足で歩き回って自由に商品を手にとつてみる事ができるデパートへ変貌しました。そして、この時期のデパートはただ商品売ただけでなく、各種展示会や催し物を定期的に行つて流行を作り出していました。

銀座がおしゃれな消費の町なら、浅草は娯楽の町です。浅草寺の門前として江戸時代から参詣客を集めた浅草ですが、明治以後に新たに造成された浅草公園には高層の展望台や当初「活動写真」と呼ばれた映画館が建設され、その他の大衆演芸とともに庶民の娯楽の場としての地位を不動のものとなりました。また、浅草と地下鉄で結ばれた上野は、美術や音楽の町として多くの人を集めました。

銀座や浅草で花開いた消費と娯楽の都市文化はやがて周囲に広がります。郊外から中心部のオフィス街や学校へ通勤通学する人々にとつて最も便利な場所は、鉄道の乗り換えをするターミナル駅の周辺です。渋谷・新宿・池袋といった、明治以前にはお世辞にもにぎわっていたとは言えない町にデパートなどが建てられ、にぎわいの場となりました。さらに戦後には、郊外住宅地の広がりとともに二十三区の外に広がったターミナル駅もにぎわつようになり、新しい都市文化を創り出す場となっているのです。

#### 学習課題4 過去の映画や写真を見て調べてみましょう

一九二〇～三〇年代に撮影された映画や写真を見てみましょう。当時のモダンな文化はどのようなところに現れているでしょうか。特に気になったことを取り上げ、現代と比較しながら調査をしましょう。そして調査をまとめ、発表してみましょう。

#### 参考文献

- ・東京百年史編集委員会『東京百年史』（全六巻、ぎょうせい、昭和五十四、五十五年（一九七九、一九八〇））
- ・和田博文編集・監修『コレクション・モダン都市文化』（全二十巻）、ゆまに書房、平成十六年（二〇〇四）
- ・博文館編集部編『大東京写真案内』、博文館、平成二年（一九九〇）

## 13 身の回りの情報・メディア

### 1 学習目標

日本の伝統・文化を考えるために、現在の自分たちの身の回りにある情報やメディア（新聞・雑誌・書籍・テレビ・ラジオ・インターネット等）に目を向ける。

現代人は様々な情報を主体的に活用しきれていないと言われるが、知識や情報が広く一般に伝わるこの意味や、生活とのかかわりについての議論を通して、情報・メディアと人間とのかかわりの歴史を学ぶための土台作りができる。

さらに、最先端の情報だけではなく、日本の伝統的な文化や現在の日本の姿が、どのようなメディアでどのように伝えられているかについても理解を深めるとともに、日本文化をメディアを用いて発信することについても学習する。

### 2 学習内容

(1) 私たちの生活と情報・メディア

(2) 情報とのかかわり

(3) 日本の文化とメディア

### 1 メディアの発達と情報・文化

日本では、江戸時代に既に出版文化が成立しており、人々はつわさ話や風聞だけではなく、書物や瓦版などのメディアを通して様々な情報を得ることができました。

しかし、明治以降の近代化の中で、西洋から取り入れられた様々な技術や放送手段によって、情報の広がり方は急速に拡大することになりました。新聞、雑誌、ラジオ、レコードと、情報を媒介する要素が増えるにしたがって、その情報を発信する人々も、情報を享受する人々も、江戸時代よりもはるかに多くなったのです。

そうしたメディアの発達は、次々と新しい文化を生み出しましたが、その一方で伝統的な文化の浸透にも役立ちました。書籍によって古典文学に接し、ラジオ・レコードで落語・講談・歌舞伎・浄瑠璃を聴き、身の回りから消えていく江戸文化を雑誌などの記事から知る。そうした文化の普及や保存にも新しいメディアは役立ってきたのです。

第二次大戦後はテレビの普及に伴って、日本人の情報への接し方や、生活の在り方も急激に変化しました。様々な事件に関する情報をより速く、より視覚的にとらえることができるようになりましたが、情報が氾濫する中で自分の立場や考えをしつかり確立することは容易なことではありません。

さらに近年は、パソコン・携帯電話・インターネットの普及により、私たちのもとに流れ込んでくる情報の量はますます多くなり、それらを取捨選択することは非常に困難な状況です。その一方で、私たちは世界中の情報や物質を直ちに得られる便利さも手に入れました。日本の伝統・文化についても、間接的なものには違いありませんが、その場所に行くことをしなくても様々な経験や知識を得られるようになりました。こうした、情報過多と利便さ、それに伴う社会・文化の変化の中で、情報というものをもう一度考え直し、またその利点をいかしながら、より一層伝統・文化についての理解を深めることが重要です。

**学習課題 1 身の回りの情報・メディアの種類と内容を調べましょう**

日常生活を送るなかで、私たちが接しているメディアにはどのようなものがあるのかについて話し合ってみましょう。新聞・テレビや携帯電話・パソコンなどはもちろん、高校生という年代に読者層を絞り込んだ雑誌や、新聞の折り込み広告など、できるだけ幅広く情報を得られる素材を挙げてみましょう。

さらに、そこからどのような情報を得て、生活にどれくらい影響を与えているのかを考えてみましょう。グループごとに一つのメディアを選び、そのメディアの利点と欠点、影響力などについてまとめ、発表し、意見を述べ合いましょう。

## 2 日本文化とメディア及び日本文化の発信

現在、メディアの中でも、日本の伝統・文化は様々な形で取り上げられ、私たちが学ぶきっかけを与えてくれますが、海外や他の国の人々に向けて、日本の伝統・文化はどのように紹介され、どのようにとらえられているのでしょうか。

インターネットが発達し、瞬時に世界中の情報を得ることができるようになったとは言え、他の国々の情報に関しては、私たち自身も一面的な見方に陥ってしまうことがあります。そのことは、海外の人々が日本を見る場合にも同様に起り得ることでしょう。いまだに、「サムライ、ニンジャ」「スシ、テンプラ」のイメージをもって日本にやってくる外国の人々も少なくないようです。これからは日本人自身が、自国の伝統・文化と、現代の日本の姿をしっかりと描き分けながら世界中に向けて発信すること、グローバル化する世界の中で存在感を増していくことが大切です。このような意識をもつことが、改めて日本の文化、日本の姿を見直すきっかけを私たちに与えてくれるでしょう。

### 学習課題2 日本の伝統・文化を発信しましょう

インターネットや書籍などを利用して、日本の情報が海外でどのように伝えられているかを調べましょう。また、その結果を利用して、日本の文化、大げさなものではなく、自分たちの住んでいる街に見られるような伝統・文化、風習などを海外の人々に伝えるための素材を作ってみましょう。写真などを撮り、簡単な英語の説明を添え、パソコンを活用してオリジナルCDを作ってみましょう。

### 〈参考文献〉

- ・ 北田暁大『広告の誕生 近代メディア文化の歴史社会学』岩波書店、平成十二年(二〇〇〇)
- ・ 松岡正剛『情報の歴史を読む 世界情報文化史講義』N-TT出版、平成九年(一九九七)
- ・ 吉見俊哉『メディア文化論 メディアを学ぶ人のための十五話』有斐閣、平成十六年(二〇〇四)



江戸の生活情報 『国花万葉記』

## 14 出版文化の誕生を探る

### 1 学習目標

現代社会は「情報社会」と呼ばれ、私たちは様々なメディアの流す情報の中で暮らしている。こうした日本の状況は、江戸時代における出版文化の成立と展開にさかのぼることができる。ここでは、様々な分野の事柄が出版物として人々の前に提供されていた。近代以降、日本の西洋型出版文化が花開き、その延長線上に現在のような社会が形成されてきたことを理解し、書物と日本人との伝統的な関係について学ぶ。

### 2 学習内容

- (1) 日本の出版文化の歴史
- (2) 江戸時代の出版物
- (3) 出版と知識・情報

### 1 日本の出版文化の成立とその展開

世界最古の印刷物と言われる、八世紀後半に成立した「百万塔陀羅尼（ひゃくまんとうだらに）」経文をはじめ、日本では、平安末頃から鎌倉・室町時代にかけて奈良・京都などの大寺院で仏典が出版されました。また、京都・鎌倉で五山と言われた寺院でも「五山版」と言われる仏書・儒書・漢籍などの出版が行われていました。しかし、これらは限られた範囲の少数の出版で、書物のほとんどは手で書き写

す「写本」によって作られていました。『伊勢物語』や『源氏物語』をはじめ、私たちが今日読むことができる室町時代までの古典作品は、写本によって伝えられてきました。しかし、知識や情報と結びつく文字も書物も、経済的な財産と同様に、ごく一部の支配階級や有識者によって所有されてきました。



「百万塔陀羅尼」  
(国立国会図書館所蔵)

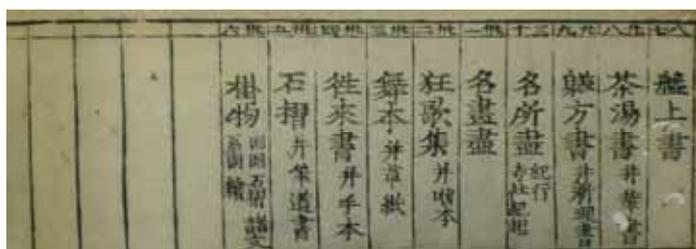
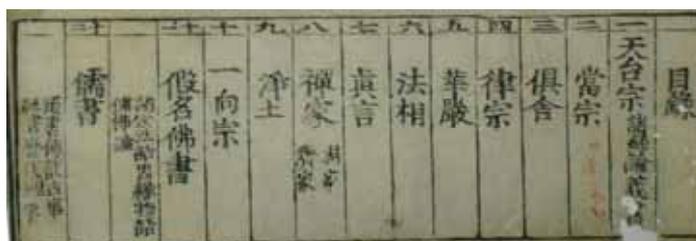


## 2 江戸時代の出版文化

近世に入ると状況は変わり始めます。宣教師による西洋式活字印刷技術や、朝鮮の活字印刷技術がもち込まれ、天皇や將軍の指示による「勅版」や「駿河版」などの出版事業が行われます。こうした流れはやがて民間に移り、江戸時代の初期には、活字印刷による商業出版である「古活字版」が京都を中心にみられるようになりました。



古活字版『伊勢物語』  
(国立国会図書館所蔵)



出版目録(『新板増補書籍(しょじゃく)目録』)では  
出版物のジャンルの多様性が分かる。

やがて出版の中心は活字印刷から木版印刷に変わり、江戸時代を通じて木版印刷が主流となります。商業出版も、京都のみならず、江戸・大坂(現在の大阪)などの大都市でも盛んになりました。本の内容も、儒教・仏教・医学に関する本や、漢籍・古典文学など、それまでも見られたジャンルにとどまらず、井原西鶴などによる新しい時代の小説や、演劇・俳諧に関する本、あるいは生活に関するガイドブックのような本など、多岐にわたる出版が行われるようになりました。



結婚のマニュアル本 (『婚礼罌栗袋』)



「武鑑」



「黄表紙」

また、「武鑑」や「黄表紙」などと呼ばれる江戸独自の出版物も誕生し、浮世絵など一枚刷りのものも併せて、出版文化は幕末に至るまで盛況を示しました。そうした出版の隆盛は名古屋など地方の都市にも広がり、貸本屋などの流通網も整備され、明治以降の西洋式印刷技術導入後の基盤が形成されました。

#### 学習課題 1 江戸時代の出版物について調べてみましょう

木版印刷がどのように行われていたのかについて調べてみましょう。そして、これまでに学習した古典作品が、どのような形で出版されていたのかについても調べてみましょう。

また、どうして江戸時代の初期に栄えた活字印刷が衰え、木版印刷が主流になっていったのか、文字の形、絵、経済的な理由など、いろいろな観点から考えてみましょう。

## 学習課題2 江戸時代に出版された本を手にとってみましょう

これまでに身に付けた江戸時代の出版文化や出版物についているような知識を生かして、図書館や博物館を見学し、実際に江戸時代に出版された書物を見てみましょう。

印刷文化の体系的な歴史も含め、様々な資料や活字を見ることが出来る場所として、印刷博物館（東京都文京区）があります。ここでは、日本のみならず世界における印刷の歴史も学ぶことができます。また、国文学研究資料館（東京都品川区）でも、古い書籍に関する内容を一般的に学べる展示を定期的に行っています。他には、国立国会図書館（東京都千代田区）、江戸東京博物館（東京都墨田区）、たばこと塩の博物館（東京都渋谷区）などの展示も利用できます。地元の郷土資料館などでも、江戸に関する本などが展示されることがあります。

## 学習課題3 出版と知識・情報について考えましょう

出版という行為を通して、私たちが得る知識や情報がどのような影響を受けているのかについて考えてみましょう。江戸時代の人々にとつての出版物と、現代の出版物とは、そのもつ意味は大きく違うでしょう。その一つに、著作権の問題があります。著作権がなかった江戸時代と、著作権を意識しながら情報を利用する現代の違いなどにも興味や関心をもってみましょう。

## 〈参考文献〉

- ・井上宗雄『日本古典籍書誌学辞典』岩波書店、平成十一年（一九九九）
- ・諏訪春雄『出版事始』毎日新聞社、昭和五十三年（一九七八）
- ・たばこと塩の博物館『版本』平成二年（一九九〇）



版木

## 15 儀式における音・音楽

### 1 学習目標

音・音楽が効果的に使われる機会として儀式を取り上げ、そこでの音・音楽の役割とその変遷を理解する。歴史的な大イベントや、身の回りで見聞した儀式の組立てと音楽・音響について調べ、自分たちの目指す儀式（イベント）の音楽・音響の演出を考える。

### 2 学習内容

- (1) 儀式における音・音楽
- (2) 儀式の組立てに対応した音・音楽の効果
- (3) 儀式（イベント）での音楽・音響の演出

### 1 儀式と音・音楽

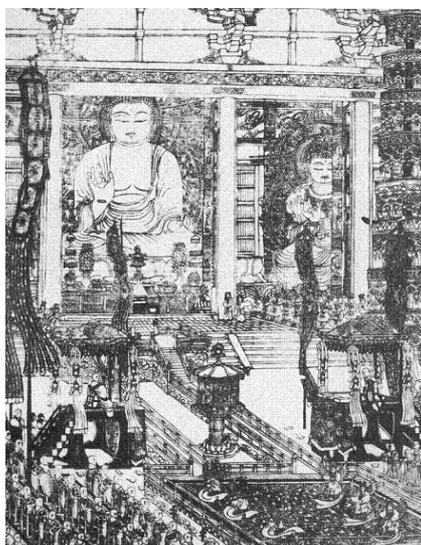
古来、大がかりな事業を始めるに当たって、その成就を祈願する儀式が行われ、無事に成し遂げられた暁にはそれを祝賀し記念する儀式が行われてきました。また、私たちは一生の中で、誕生・入学・成人・結婚・葬儀などの節目に際して様々な儀式を体験します。形式を重んじる反面、内容が乏しいことを「儀式的」と形容する場合がありますが、儀式を遂行するには実は相当の準備が必要となります。また儀式は、一度限りで、その場で消え去ってしまう性質のものでありながら、参加した人々のその後の行動や心理に思いの外大きな効果をもたらします。その意味で、儀式もまた人間の創り出した文化の一つと言えるでしょう。

儀式の形は、時代や地域の特徴を反映して移り変わってきました。現在のように映像や音を記録する手段のなかった時代の儀式の有様は、文献や絵画などを手がかりに考えるしかありませんが、繰り返し行われる中で形を整え時代を超えて洗練されていった儀式もある一方で、空前絶後となった大イベントや、時代と共に役割を終え、やがて途絶えた儀式もあります。

歴史上極めて名高い儀式として、天平勝宝四年（七五二）に奈良の東大寺で行われた大仏開眼供養会の様子を見てみましょう。

この儀式の中心は、鑄造されたばかりの巨大な金銅の仏像に眼を点じ信仰の対象とするための作法でした。大仏殿の内部には、この開眼の任に当たった菩提達磨を初めとする外国人の高僧や、大仏建立を発願した聖武太上天皇、光明皇太后、孝謙天皇らが列座し、大仏殿の外では、一万人規模の僧侶たちによる声明が唱えられ、当時の日本に在っていた種々の歌舞や外来の楽舞が代わる代わる奉獻されました。

儀式は、物音のしない厳かな静けさが演出される場合も含めて、音や音楽が非常に効果的に使われる場でもありました。大仏開眼供養会では、次々に披露される音楽や舞踊が創り出す壮麗な音響と律動は、長い年月をかけ



大仏開眼会（写真提供 岸辺成雄氏）

た大仏完成の喜びを実感させ、人々の心に迫ったはずです。このときの楽舞に使われた装束の一部が今も正倉院に残っていて、当時をしのぶことができます。

このように大がかりで非日常的な儀式のもつ力は、はるかな時を隔てた現代でも、国際的な巨大イベントであるオリンピックや万博の開会式などにも見出すことができます。

### 学習課題 1 開会式に使われた音・音楽を調べましょう

戦後に日本で開催された東京オリンピック(一九六四)、大阪万博(一九七〇)、札幌オリンピック(一九七二)、長野オリンピック(一九九八)の開会式の組立てと、どのような場面でのような音楽や舞踊が使われたかを調べてみましょう。

国際的に行われるイベントの中で、「日本らしさ」が時期によってどう表されたのかについても考えてみましょう。

## 2 身の回りの儀式と音・音楽

私たちの身近にある儀式に目を向けてみましょう。巨大イベントと違って、こちらは同時代であっても地域社会や家庭、当事者による違いが大きく、様々な形が考えられます。

例えば結婚式は、今日では神前式(神道式)・教会式・仏教式・人



東京オリンピック開会式

前式などの方式で執り行われますが、それに応じて会場のしつらえや衣装、使われる音楽も違ってきます。江戸時代までの日本では、結婚式は宗教的な儀式としてではなく行われるのが普通で、祝言の席では謡曲「高砂」の一節や長持唄などが祝い歌として歌われました。キリスト教会での結婚式では、多くの場合、式中にオルガンが演奏され、その伴奏で結婚式用の讃美歌や聖歌が歌われます。

神前での結婚式は、明治三十三年(一九〇〇)に行われた当時の皇太子・嘉仁親王(のちの大正天皇)と節子妃の宮中賢所での結婚式がモデルとなつて民間に広まったと言われています。式中では多くの場合、雅楽が演奏されます。儀式に続く祝宴の組立てや音楽は、さらに選択の幅が広く、今日では実に様々な演出が可能で、一般に、祝儀の場には晴れやかさ、めでたさを表現した音や音楽が選ばれ、新しい門出を祝福する歌が歌われて、場の雰囲気をもるいものになります。



神前結婚式【雅楽】(写真提供 神田明神)

死者を送る儀式である葬式は、当事者の属する宗教や宗派、地域集団により決まった方式で行われます。葬式の基本的な形は、仏教式であれば、僧侶によって宗派ごとに決まった読経や声明が行われ、時に御詠歌などが歌われる場合もあります。神道式では雅楽が奏され、キリスト教会式であればオルガンによる奏楽と讃美歌・聖歌が歌われます。人の死のとらえ方は時代や民族、宗教によっても異なり、葬式に用いられる音・音楽では、一概に悲しみやしめやかさが表現されるとは限りません。死や生をどのようにとらえるかという死生観が変化

した結果、近年では、無宗教の別れの会という方式を選択する場合や、本人の意向にしたがって生前から独自の葬式を準備する場合も少なくありません。その際の音や音楽にも決まりはなく、故人の好んだ音楽を用いることが多いようです。

### 学習課題2 身近な儀式を調べてみましょう

自分や家族が出席した結婚式の例をもち寄り、儀式の組立て、そこで用いられた音楽や歌を比較してみましょう。父母・祖父母の時代の結婚式について聞き取り調査をし、当時と現在でどのような違いがあるかを調べてみましょう。また葬式についても、地域や時代による違いを見付けてみましょう。そして、心に残る儀式の在り方に音・音楽がどうかかわるかを考えてみましょう。

### 3 儀式(イベント)の組立てと音・音楽

儀式を一つの表現と考えると、宗教的なものもそうでないものも、また、盛大なイベントもより身近な儀式も、一見決まり切ったものもようでありながら、実はその趣旨によって数々の選択が行われていることが分かります。儀式のなかで音・音楽がその演出に大きな役割を果たすことを既に見てきましたが、現在では、生の音楽や歌だけでなく、既存の音源を組み合わせて使うことも可能です。その場合でも、儀式がその場に人々が居合わせることを基本に成り立っていることには変わりありません。

### 学習課題3 学校の儀式

文化祭の開会式、クラスのお別れ会など、学校生活の中での儀式を自分たちで企画しましょう。会場のしつらえ、儀式の内容、儀式にふさわしい音・音楽を話し合って決めましょう。また儀式を開催するための係を分担し、リハーサルも十分に行いましょう。

### 企画アイデアメモ

## 16 世代をつなぐ日本のうた

### 1 学習目標

世代を超えて長く歌い継がれている「日本のうた」について調査し、それらのよさや特徴を理解するとともに、うたの歴史的・文化的背景や人々にとっての意味などを探る。さらに、うたを介した交流会を企画し、互いの表現を発表し合う体験を通して、かかわりを深める力を高める。

### 2 学習内容

- (1) 日本のうたの主なジャンルと代表曲
- (2) 長く歌い継がれているうたや今後も歌い継いでいきたいうたに関するアンケートと聞き取り調査の実施
- (3) うたを介した交流会の企画・実践

### 1 多様なジャンルが含まれる「日本のうた」

「うた」ということばは、「歌」「唄」「謡」など、時代やジャンルなどによって異なる漢字が用いられます。ひとくくりに「日本のうた」といっても、そこには様々なジャンルが含まれています。

遊びなど生活の中で伝承されてきたわらべ歌、明治以降広く親しまれてきた唱歌や童謡、芸術的な日本歌曲、能や長唄などの日本の伝統音楽、民謡などの郷土の伝統音楽、そして、大衆音楽として確固たる地位を築いてきた歌謡曲や演歌、フォークソングやニューミュージック

クから近年のJ・ポップなどに至る日本のポピュラー音楽。さらには映像と結び付いた映画・ドラマの主題歌やアニメソングなど、実に多様なジャンルに分かれています。

これらの世代を超えて歌い継がれてきている日本のうたは、ふるさとの自然や情景、時代の世相や文化状況、さらには、そこに生きる日本人の情感や叙情、すなわち、日本人の心に深く結び付いて生成発展してきたものです。日本人の精神形成にも大きな影響を与えてきた日本のうたは、まさに日本の文化的遺産の一つと言えるでしょう。

ところが、情報化、国際化が進む今日の社会においては、ともすれば、こうした日本のうたを歌い継いでいくことが忘れがちになってしまいます。そうした状況を克服するためにも、日本のうたを通じて、日本の伝統や文化について考えてみましょう。

### 学習課題1 日本のうたについて調べましょう

日本のうたには、わらべ歌や唱歌・童謡、「民謡などの郷土の音楽」、歌謡曲、アニメソング、ポップスなどメディアによって伝えられる「うた」など多様なジャンルがあります。その中から興味・関心の高いジャンルを選び、その歴史的・文化的な背景などを調べて発表したり、それぞれの代表曲を歌ったりしましょう。そして、うたで歌われている地域、うたの舞台となった場所を散策したり、歌碑を探して訪ねたりしましょう。

文部省唱歌「春の小川」は、明治末から大正はじめの代々木から渋谷にかけての情景が、童謡「夕焼小焼(ゆうやけこやけ)」は、八王子・上恩方の情景がイメージされたと言われています。また、隅田川のほとり、言問橋近くの隅田公園には、「花」の歌碑が残されています。



### 3 交流会の企画・構想・実践

世代を超えて歌われている日本のうたを聴き合ったり、表現し合ったりして世代間の交流を活性化させるために、うたの交流会を実際に企画・構想しましょう。

音楽の楽しさやすばらしさは、表現する側とそれを享受する側が音・音楽を通して心を交流し、感動を共有することにあります。世代をつなぐ日本のうたを介して、子どもや地域社会の人々と交流しながら音楽する楽しさを体験できる本単元では、表現・交流する力や様々な世代の人々とかかわる力が培われます。

交流会の実施に際しては、次のようなプロセスが考えられます。

- (1) 日時や場所を決定する。
- (2) 役割を分担する。

・ 作詞者、作曲者などについて調べ、資料づくりにかかわるグループ

・ 楽譜や演奏形態を選択するグループ

原曲を斉唱するのか、合唱に編曲されたものを演奏するのか、あるいは、ピアノ以外の楽器を加えて演奏するのかなどについて話し合う。

・ 演出や広報などを工夫するグループ

・ 録音・録画など記録を工夫するグループ

- (3) 練習とりハーサルを通して、本番に向けたチェックを行う。

- (4) 交流会を実施し、その内容に関して自己評価や相互評価を行う。

### 学習課題3 日本のうたを通じた交流会を開催しましょう

自分たちの行ったアンケート調査に基づいて、上位にランクされた日本のうたを中心に、交流会を企画・構想しましょう。

#### コラム 世界に広げよう「うたの輪」!

日本のうたの中には、広く海外でも歌われている曲が少なくありません。「浜辺の歌」(作詞：林古溪、作曲：成田為三)は英語や中国語に訳されて広く海外でも歌われています。英語訳では、スーザン・オズボーンのものが特に有名です。

また、「ずいずいづいころばし」や「春が来た」「あめふり」などの日本のうたが、アメリカの音楽教科書『ザ・ミュージック・コネクション』(The Music Connection, I-8, Silver Burdett Ginn, 一九九五)などで紹介されています。

さらに、歌謡界でも、かつて坂本九が歌った「上を向いて歩こう」が、「SUKIYAKI」として全米ヒットチャート一位にランクされ、大きな話題となりました。情報メディアが革新的に発達した最近では、インターネットを通して各国へ配信されている曲も少なくありません。

このように海外でも広く親しまれているうたとともに、自分たちの好きな日本のうたを英語に訳して歌ってみましょう。地域社会の外国人や留学生たちと一緒にそれらのうたを歌い合う交流会、つまり国際的な広がり発展する「うたの輪」は、国際交流や国際理解教育という視点からも大変重要な意味をもつものです。

## 17 大相撲と現代生活

### 1 学習目標

大相撲をテーマに、その歴史的背景と現代生活とのかかわりについて学ぶことを通して、日本の伝統や文化の変遷を理解するとともに、日本の誇れる文化を世界の人に説明できるようにする。

### 2 学習内容

- (1) 大相撲の歴史
- (2) 相撲用語と現代生活
- (3) 相撲部屋の仕事

### 1 大相撲の歴史

日本相撲の歴史は古く、「古事記」や日本書紀の中で紹介されています。力士の形をした埴輪や須恵器（すえき＝素焼きの土器）に相撲をとっている姿が見られます。平安時代には「相撲節会（すまいのせちえ）」が七月七日に催されていました。

#### (1) 江戸時代の勸進相撲

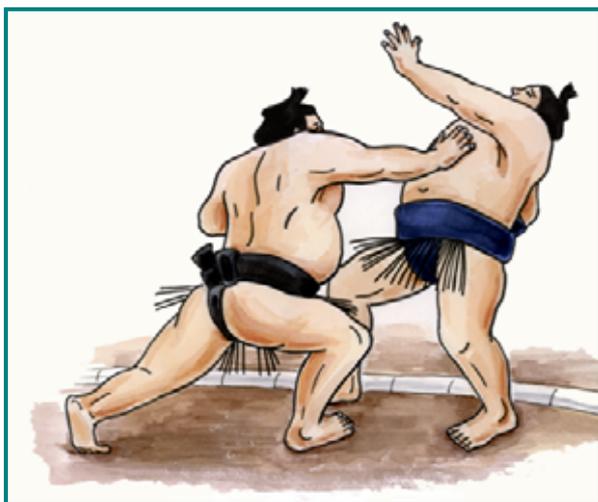
江戸時代になると、寺社の建立や修復のための寄付を集めるために庶民的な相撲が行われるようになりました。この頃の土俵は、見物人が輪を作つてその中で取組が行われたようです。相撲の勝敗は、相手を倒すほかに人垣の中に押し倒しても勝ちとなりました。そのため、人垣から人が出ることも多く、けんかが絶えなかった

め、現在のような土俵に改良を行うことになりました。改良された土俵は人垣の代わりに俵を埋めたもので、四隅には柱が立てられ、檣（やぐら）が組まれました。

#### 学習課題1 相撲の決まり手を調べましょう

江戸時代には決まり手の四十八手が成文化されましたが、現在では日本相撲協会によって八十二手にまとめられています。知っている決まり手を書き出してみよう。

「例」寄り切り



上の決まり手は

( )

(2) 現代の大相撲

江戸時代後期に入り、今の日本相撲協会の前身に当たる江戸時代相撲会所が整備され、相撲部屋が次々と誕生しました。昭和になると、観客が見やすいように四本柱が撤廃され、ラジオ中継に続き、テレビ中継、そして世界に向けて衛星中継も始まりました。

近年、相撲は国民的な娯楽になり、近代スポーツとしての確固たる地位を獲得し、諸外国でも人気のある日本の国技です。

2 大相撲と現代生活

大相撲をテレビで見ると、しきたりや作法、技や地位などを表す用語、文字(歌舞伎文字、寄席文字、相撲文字などの江戸文字)などに日本独特の文化があることに気付くと思います。また、これらのうち、現代の私たちの生活にかかわっているものも少なくありません。まず、相撲用語について考えてみましょう。

(1) 横綱

横綱は、大相撲の最高位を表しますが、本来は腰に締める綱の名前です。現代生活でも「横綱」と言えば、最上位を示す言葉として使われています。

(2) 花道

花道の呼び名は、約二二〇〇年前の平安時代にさかのぼります。相撲節会で相撲人(力士)の出入り口に青竹で垣根を作り、東から出場する力士は葵(あおい)の造花を、西から出場する力士は夕顔の造花を髪にさしていたことに由来します。力士は自分の取組の二番前に、支度部屋からこの花道を通って土俵へ向かい、土俵の前で立ち止り、一礼して控えに入ります。礼に始まり、礼に終わる相撲

の基本がここにも見られます。大関、横綱と対戦する場合、下位の力士が先に入場するのが礼儀です。

(3) 股割り

力士たちは、自分で稽古を探し求め、股割りなどの一人で行える稽古を黙々と積み重ねていきます。股割りは、両脚をいっぱい開き、上半身を地面につける稽古のことをいいますが、力士が、柔軟な足腰をもちあらゆる動きに対処でき、激しい相撲でもケガをしないのは、このような日頃の予防運動のためです。

(4) 相撲文字(相撲字)

番付や顔触れなどに行司が専門的に書く、相撲界独特の書体の毛筆文字のことです。字画の間の白い部分をできるだけ少なくし、一文字の面を黒々と塗りつぶすように書きます。これは、場所入りで立すいの余地がないという縁起を担いだものといわれています。

学習課題2 相撲用語について考えてみましょう

次の相撲用語が、現代の生活の中でどのように使われているか調べてみましょう。

満員御礼

番付

土俵

### 3 相撲部屋の食事

力士は、師匠（親方）の住居と稽古場を兼ねた生活の場ともなっている相撲部屋で生活をしています。そこに所属するのは、力士以外に、部屋付きの年寄、行司、呼び出し、床山（髪を結う人）、若者頭、世話人らがいます。関取（十両以上）には個室があてがわれます。

そこでつくられる食事を「ちゃんこ」と呼び、力士の食事、料理の総称です。ちゃんこの語源は、「ちゃん」おやし・師匠、「こ」子ども・弟子「からきたものです。つまり、師匠と弟子と一緒に食べる料理のことです。

(1)「ちゃんこ鍋」をつくる。

(次の空欄につくり方をまとめましょう。)

準備

- ・グループづくり
- ・鍋（人数分）
- ・食器等

(2) 感想

各グループ

<p>大根 ちゃんこ鍋 (練馬区)</p>	<p>材料 鳥肉、野菜、お餅など</p>	<p>作り方 鳥がらで、だしをとる。 大根やにんじんなどの材料は、食べやすい大きさに切り、別にゆでておく。 湯を沸かしたら火を弱め、砂糖、みりん、醤油などで味を調整する。 スープができたら、鶏肉を入れる。 大根や白菜、玉ねぎや長ねぎなどを入れる。</p>
<p>感想</p>	<p>オリジナル ちゃんこ鍋</p>	

#### 4 大相撲Q&A

(質問1) 力士になるための資格や条件はありますか。

日本相撲協会寄附行為施行規則五十五条に以下のように書かれています。

「力士を志望する者は、義務教育を修了した二十三歳未満の男子で(中略)協会の指定する医師の健康診断ならびに検査に合格し、登録されねばならない。新弟子採用の検査は、次の二つに区分して行う。

- 一 第一検査 身長一七三センチ以上 体重七十五キロ以上
- 二 第二検査の基準に達していないもので、身長一六七センチ以上体重六十七キロ以上の者を対象に、優れた運動能力をもち、力士としての適性を有すると思われる者については、師匠の推薦に基づき、基礎体力、運動能力等の検査を実施し、一定の基準以上の者を採用する。」

(質問2) 「関取」と「相撲取り」は違うのですか。

力士の地位は、横綱、大関、関脇、前頭の幕内力士、十枚目(十両)、幕下二段目、三段目、序二段、序の口とあります。十枚目に昇進すると「関取」と呼ばれ、力士として一人前になります。

このような例を基に質問を考え、実際に取材してみましょう。

東京にある相撲部屋は、多くが「国技館」のある墨田区に位置しています。が、近隣の江東区、江戸川区、台東区、足立区などにもあります。杉並区、中野区、練馬区、大田区、国立市などにもありますので、調べてみましょう。

質問 3

質問 4

#### 【発展学習】

外国の人々に「大相撲」のことをどのように説明できるか、まとめてみましょう。

#### 〈参考文献・資料提供等〉

- ・ (財)日本相撲協会
- ・ 金指基、(財)日本相撲協会監修「相撲大事典」(現代書館)
- ・ 日本相撲協会 大山進

## 18 着付け・和装

### 1 学習目標

日本人にとって伝統的な服装である和服や小物など、和装全体について学ぶとともに、実際に着付けなどを体験する。また、着物を身にまとうだけではなく、和服を着たときのしぐさや礼儀についても学ぶ。さらには日本舞踊を体験することにより、日本人にとっての衣服と身体についても考えることを目標とする。

### 2 学習内容

- (1) 着物と和服
- (2) 和服の着用
- (3) しぐさ・礼儀作法・踊り

### 1 着物と和服

和服は、日本の伝統的な服装です。日本人は衣服のことを着物(きもの)と呼んできましたが、明治以降洋服を着る人が増え、洋服と区別するために和服という言葉が使われるようになりました。今日では、着物、和服、呉服は一般的に同義語として用いられています。

現在では男性女性を問わず、成人式や卒業式・結婚式など限られた機会にしか和服を着ることがなく、外出するとき、さらには日常生活の中で和服を着ている人はまれになりました。そのため、いざというときに自分で着ることは難しく、帯や小物を選ぶのにも特別の知識が

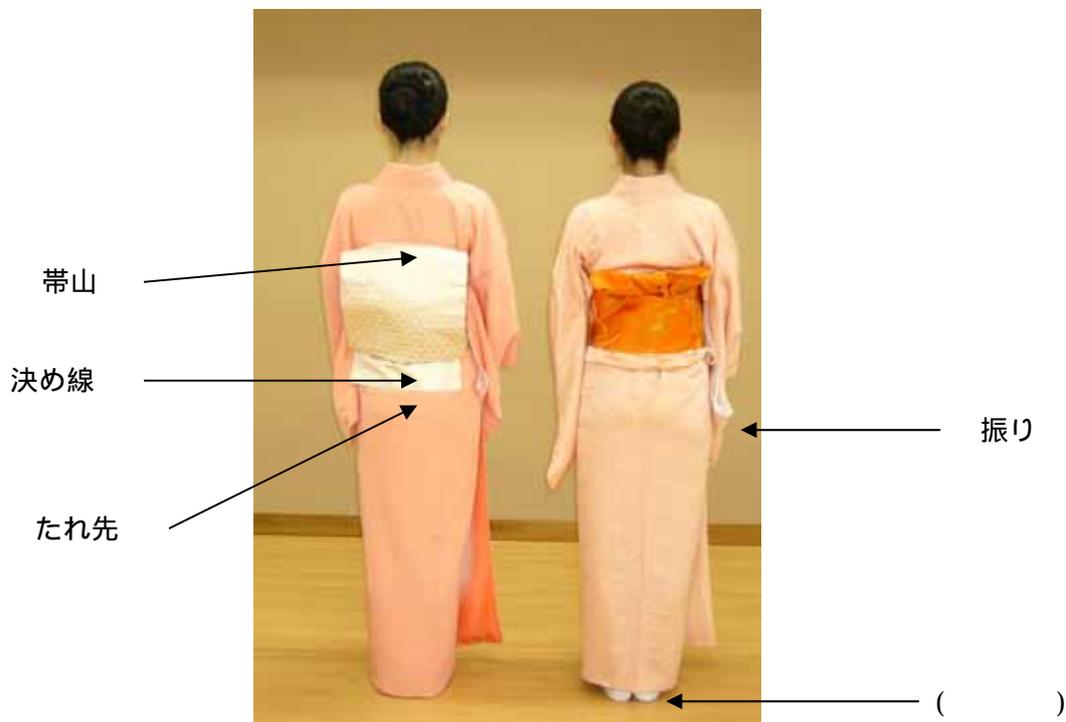
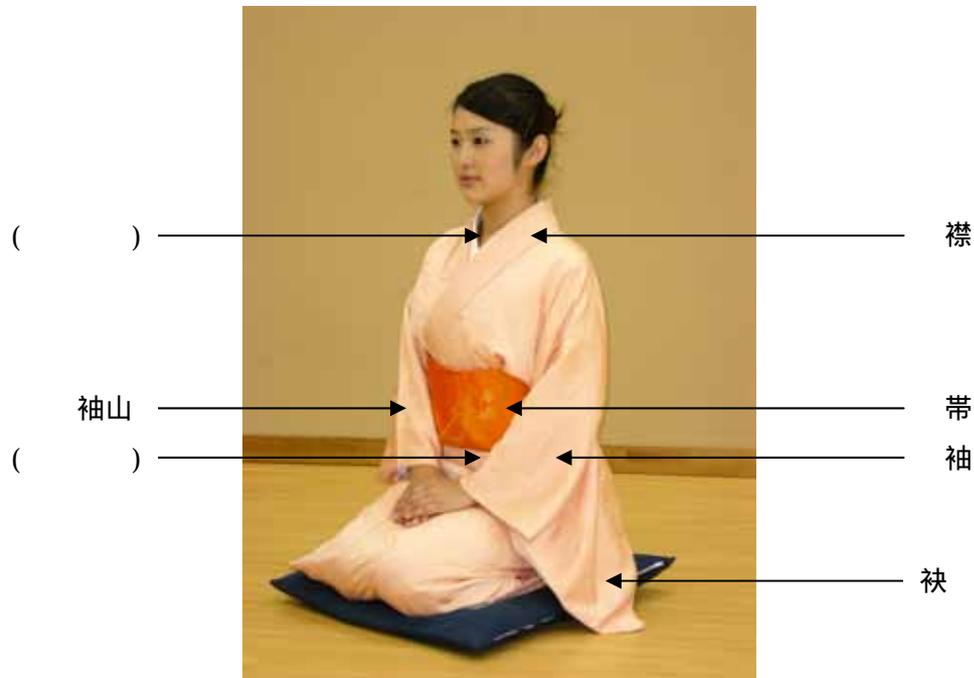
必要になり、ますます和装の世界から遠ざかっているように感じられます。

しかし、和服は現在でも日本人の正装として用いられており、日本人の身体に合う衣装です。ここでは和服について学び、少しでも和服を身近なものにしてみましよう。



学習課題1 和服について調べてみましょう

(1) ( ) にはあてはまる和服の部分の名称を書きましよう。  
また、他の部分の名称も調べて書き込んでみましょう。



(2) 和服の種類について調べてみましょう

和服には、その用途や素材によって様々な種類があります。用途別には振袖、黒留袖(くろとめそで)、色留袖、訪問着、付け下げといったものがあります。また、生地や産地と結び付いて紬(つむぎ)・絞(しぼり)・友禅・縮(ちぢみ)・緋(かすり)などに分類されます。日本の伝統工芸とも結び付いた和服の種類について調べ、それぞれの特徴や魅力をまとめてみましょう。

っても、うまく着こなすのはなかなか難しいものです。着付けのできる人に習いながら、自分で浴衣を着る練習をしてみましょう。また、浴衣を着るときには、足袋や肌襦袢(はだじゅばん)などの小物にも注意しましょう。

浴衣を着終わったら、今度はたたみ方を学びましょう。和服の種類や帯の種類ごとに異なる、適切なたたみ方についても学習しましょう。

## 2 実際に和服を着てみよう

和服の中でも、浴衣はみなさんにとって親しみがあるかもしれません。夏祭りや花火を見に行ったり、温泉地でくつろいだりしたときに浴衣を着たことがある人もいるでしょう。とは言え、浴衣であ



着付け



着物をたたむ

### 3 和服を着て動く

和服を着ると、洋服とは違った和服ならではの身体の動きをすることに気がきます。正装として着物を着れば、立ち居振る舞いや、礼儀作法に気を付けて行動することが求められます。また、日常の動きだけではなく、例えば日本舞踊のような特別な動作をすることもあります。日本舞踊の動きは、和服を身に付けた身体がより美しく見えるように工夫されています。そうした動きを体験することも、和服を、そして日本文化を見直す一つのきっかけになるでしょう。

#### 学習課題2 和服を着て日本文化を味わいましょう

和服を着て、日本舞踊や茶道、華道を体験しましょう。また、礼儀作法と和服との関係についても考えてみましょう。



座礼の作法



和服を着て踊る

## 19 「道」に学ぶ「茶道・華道」

### 1 学習目標

茶道と華道の歴史や思想及び基本的所作を学ぶことにより、日本人の美に対する感性と精神性の奥深さに触れる。

### 2 学習内容

- (1) 茶道及び華道の成立背景と諸概念
- (2) 茶道又は華道の基本的所作と精神性
- (3) 外国からの客人に対する学習成果の披露

## 1 日本の文化と「道」

日本の伝統的な文化には、「道(どう)」「(道)どう」という言葉の付いたものが数多く存在します。その一例として、武道(剣道、柔道、合気道など)やその他の芸道(茶道、華道、歌道、香道、書道など)を挙げることができます。これらに共通している点は、日本人が長年にわたって形成してきた慣習や振舞いが体系化されていること、高い達成度をもっていること、そして道徳や宗教、政治、経済など様々な要素を含んでいることです。明治期に、芸道が「日本人の精神性を極めるもの」と位置付けられたため、それまでの「術」などの呼称が、「道」という呼称に改められました。

「道」という言葉は、もともと「体系」という意味をもっています。中世から近世にかけて、様々な技芸の伝授の形が整ってくる、この

体系という意味に思想や哲学的背景、修行といった要素が加わるようになってきました。技芸において大切なのは、技術的な向上だけでなく、倫理性、道徳性、そして人格の向上にこそあると考えられます。

道では、技芸の系統的な伝承が重んじられるため、師弟関係が大切にされます。これにより、日本独自の芸術観が確立し、精神性が深化したと言われています。技芸の指導方法を管理し、各流派の秩序と流儀の正当性を保持するため、家元制度という伝承の在り方が現代まで脈々と受け継がれているのです。

道が成立した時代的、社会的な背景を調べたり、その基本的な所作を学んだりすることによって、日本人が培ってきた自然を愛する心、他者を思いやる心、そして伝承と創造の精神に触れることができるでしょう。

## 2 茶道

茶道(さどう、ちゃどう)は、元来「茶湯(ちやとう)」「茶の湯」と言い、客人に茶をふるまうための体系的様式を意味します。しかし、茶をいれて飲むという行為だけにとどまらず、華道をはじめ、和菓子や陶芸、建築、仏教、文学など、多様な日本の文化に通ずる総合芸術であるというところに、その特徴があります。現在、茶道には抹茶道と煎茶道の二種がありますが、単に茶道という場合には、前者を指します。

茶を飲む習慣とその製法は、平安時代、遣唐使によってもたらされたと言われ、半発酵茶を煎じて飲んだようですが、生活習慣としては根付きませんでした。茶が広く一般に普及したのは鎌倉時代のことです。

禅宗と共に薬として持ち込まれた抹茶が、日本でも栽培されるようになりまし。室町時代には、大名の間で茶が流行しましたが、同時に本場中国の茶器に大金を投じたり、茶会で博打(ばくち)や飲酒を行ったりするという風潮も生じました。これを批判し、精神的な交流を重視する茶会の在り方を説いて、「わび茶」の源流を築いたのが、村田珠光(むらたじゆこう)です。わび茶はその後、安土桃山時代に、武野紹鷗(たけのじょうおう)とその弟子の千利休によって完成されました。利休のわび茶は武士階層にも広まり、利休七哲と呼ばれる弟子たちや、流派をなす大名たちが生まれています。

江戸時代初期まで、茶の湯人口は大名や豪商などに限られていましたが、江戸中期に町人階級が経済的に豊かになったことで飛躍的に増しました。そして、これらの大勢の門弟を統括するために家元制度が確立され、新たな稽古方法が考案されたのです。こうして、茶の湯は日本全国に広く普及していきましたが、同時に大衆化、遊芸化という弊害も生じました。

他方で、大徳寺派の臨済宗寺院を中心に、精神論が再び重要視されるようになりまし。利休流茶道の根本とされる「和敬清寂」は、このときに生み出された標語ですし、「一期一会」は、幕末に井伊直弼によって完成された概念です。各流派による点前(てまえ)の形態や茶会様式の体系化に加えて、こうした精神論が整備されたことによって、現在「茶道」と呼んでいる茶の湯が完成したと考えられています。

明治時代になると、封建制度が崩壊したため、諸藩になり代わって、財界人、実業家たちが、茶の湯の庇護者となりました。明治三十九年(一九〇六)には、岡倉天心がアメリカで『The Book of Tea(『茶の本』)』を出版し、茶道の紹介をしています。

### 3 華道

華道(かどう)は、草花や樹木などの植物を組み合わせて構成する「いけばな」に求道的側面が加わったもので、「花道」と表記されることもありまし。

花の生け方は流派によって様々です。例えば、見る方向を正面に限る流派もあれば、三次元の空間を二次元で最大限に表そうとする流派もありまし。また、欧米のフラワーアレンジメントのように、三次元のどこから見ても統一した型が感じられるように生けるという方法もありまし。

器に挿した花を愛(め)でるという習慣は、平安時代までさかのぼることができまし。当初は既存の器が利用されましたが、後に専用の花器が製作されるようになりまし。



生花作品(山下かおりさん作)

華道の精神性は、室町時代中期、京都六角堂の僧侶によって深められたと言われています。彼らは、代々池のほとりに住んでいたことから「池坊（いけのぼう）」と呼ばれ、それが後に流派の名称となりました。その後、江戸中期から後期にかけて、上流階級あるいは武家階級のものであった華道が、庶民のたしなみへと大きく変化しました。特に、未生流、古流、遠州流、専慶流などからは技巧的な達人が登場し、多くの流派が誕生するきっかけとなりました。

江戸末期から明治初期の頃、日本ブームが起こり、華道・いけばなが欧州に紹介されて、ヨーロッパのフラワーアレンジにも影響を与えました。国内では、その後も多様な型が考案され続けており、平成十七年三月現在、流派の数は、「日本いけばな芸術協会」に登録されているだけで、三九二にも上っています。

**学習課題1 茶道、華道の歴史と基本的な用語を調べましょう**

(1) 歴史

- 変遷と流派
- 代表的な人物
- 現代における位置付け

(2) 用語

次に示す基本的用語の意味を文献等で調べ、ア～ウの項目ごとに分類してみましょう。

- 茶道
- ア 点前の道具に関するもの
- イ 理念
- ウ その他

- |         |          |              |          |        |
|---------|----------|--------------|----------|--------|
| 菓（なつめ）  | 千利休      | 茶巾           | 水指（みずさし） | 四規七則   |
| 表千家     | わび       | 茶筌（ちやせん）     | 香合       | 武者小路千家 |
| 懐紙（かいし） | 建水（けんすい） | 半東（はんとう）     | 茶杓       |        |
| 掛け軸     | 亭主       | 一期一会（いちごいちえ） | 帛紗（ふくさ）  |        |
| 水屋      | 裏千家      |              |          |        |

華道

- ア 道具に関するもの
- イ 生け方に関するもの
- ウ その他

- |             |          |             |
|-------------|----------|-------------|
| 生花（しょうか）    | 盛花（もりばな） | 花意匠（はないしょう） |
| 立花（りっか）     | 真（しん）    | 行（ぎょう）      |
| 役枝（やくえだ）    | 剣山       | 投入（なげいれ）    |
| 三才型・陰陽型・五行型 | 瓶花（へいか）  | 花鋏（はなばさみ）   |
| 供花（きょうか）    | くげ       | くうげ         |

**学習課題2 他国の習慣との共通点や相違点を調べましょう**

- (1) 茶道：アフタヌーン・ティー（英国）、茶芸（中国）、茶礼（朝鮮半島）などと比較して

- 茶を飲む目的と礼儀や身だしなみに対する考え方
- 客のもてなし方と演出
- 道具や器の形状と材質

(2) 華道：フラワーアレンジメント(欧米と比較して

花材、素材の特質

色彩、形状、「静と動」に対する感性

構成のきまりと空間性、立体性についての考え方

学習課題3 茶道・華道の基本的な所作を学びましょう

(1) 茶道

座り方、移動の仕方、襖の開閉

あいさつと会話

茶・菓子のおいだき方

床の軸や花、茶碗などの鑑賞

茶巾のたたみ方、帛紗(ふくさ)のさばき方

茶の点(た)て方と運び方、茶碗の下げ方

(2) 華道

花材の選択と組合せ

花器との接し方

構成と配置

古典的な生け方と現代的な生け方

学習課題4 外国からの客人に、学習の成果を披露しましょう

(1) 図表や写真などを工夫して、調べたことを簡潔に分かりやすく紹介する。

(2) 茶を点(た)てたり花を生けたりして、客人をもてなす。

#### 【発展学習】

1 日常生活における立居振舞いや他者を思いやる心について、話し合ってみましょう。

2 茶や花を通して、生活を明るく潤いのあるものにしまじょう。

#### 〈参考文献・資料等〉

・岡倉天心『茶の本 何が「和」でないか』哲学書房、平成十八年(二〇〇六)

・「道」「茶道」「華道」『ウィキペディア(Wikipedia)』  
<http://ja.wikipedia.org>

・『茶道・華道・書道の絵事典 日本文化の基礎がわかる 初歩から学ぶ』PHP研究所、平成十八年(二〇〇六)

・假屋崎省吾『花・葉・器・自由自在 花と葉と器の関係についてお話ししようか』角川書店、平成十三年(二〇〇一)



## 20 道具と工具

### 1 学習目標

大工道具や美術・工芸で使う道具を例に、伝統的な道具や工具の機能や意味について、それを用いて作られる作品や製品から理解する。また、専門家が作業する職場見学や体験を通して、現在も生き続ける伝統的な地場産業や職人とその生産品を知ること、技を伝承する大切さを理解する。

### 2 学習内容

- (1) 道具の種類
- (2) 道具の使用
- (3) 道具とものとの関係
- (4) 継手(つぎて)・仕口(しくち)の製作
- (5) 美術・工芸の道具

### 1 古民家の木材

近年、古民家が見直されています。太い木材を縦横に組み合わせで作られ、長い歳月を経てきた古民家には、現代の建築にはない魅力があるからでしょう。こうした古民家をじっくりみると、柱や板などの表面には加工の痕跡(こんせき)が残され、また、太い材木を組み上げるための様々な工夫がなされていることに気がきます。

樹木は大空に枝を広げ大地に根を張っている自然の産物です。こうした樹木は自然のままでは複雑な建築物を作り上げることはできま

せん。樹木を加工して、柱や板といった材木に変え、更に材木に細かな細工を施し、材木同士を接合して頑丈な骨組みをつくることで建築物は出来上がります。その過程で必要になるのが道具です。

つい最近まで、建築をはじめ、美術工芸品から身の回りにある日用雑貨品まで、すべて人が道具を使って製作していました。道具

を使ったものづくりの風景は、町のあちこちでみられる日常的なものだったのです。

道具は人が込める力をつまく調整してこそものの形を変えることができ、言わば手の延長といえるものです。日本には、使用する目的に応じて異なる、膨大な種類の道具が存在しています。これらの道具の存在は、ものづくりを得意とした日本の伝統・文化を反映していると言えるでしょう。



古民家の材木仕上げ



古民家の木組み

(「作田家住宅」川崎市立日本民家園)

### 学習課題1 様々な道具について調べてみましょう

衣類、陶器、漆器など、生活に必要な製品を選び、それがどのような道具を使って、どのような工程を経て作られていたのかを調べてみましょう。

## 2 大工道具の世界

数ある道具のうち、最も種類が豊富なのが建築をするための大工道具です。現在の建設現場では、必要とされる大工道具の数は減っていますが、かつて一人前の職人は数多くの道具を所有して、用途に応じてそれらを使い分けていました。

戦前の昭和十八年（一九四三）に行われた調査によると、木造の家を建てるには約百八十種、最低限の工事に限っても約七十種ほどの大工道具が必要だったようです。

このように大工道具には様々なものがありますが、役割によって分類すると次の七種類に分けられます。



- (1) おおまかな加工をする：鉞（まさかり）・長斧（ちような）  
木材を荒っぽく切断したり、表面を削ったりします。
- (2) 計る、描く：定規・曲尺（かねじゃく）・墨壺（すみつぼ）  
木材の長さを測ったり、加工のための線をひいたりします。
- (3) 切断する：鋸（のこぎり）  
木材を切断します。

- (4) 削る：鉋（かんな）  
木材の表面を削ってなめらかにします。

- (5) 穿つ：鑿（のみ）・錐（きり）  
木材に穴をあけます。

- (6) 叩く：鎚・槌（つち）・玄翁（げんのう）  
釘や鑿（のみ）の頭を叩きます。

- (7) 引き抜く：釘抜き

この中でも、鉋（かんな）と鑿（のみ）は、加工する部分の大小に応じて、一人の職人が数十種も使い分けています。

### 学習課題2 大工道具の使い方を調べてみましょう

鋸（のこぎり）・鉋（かんな）・鑿（のみ）・錐（きり）  
鎚・槌（つち）・玄翁（げんのう）・墨壺（すみつぼ）  
長斧（ちような）・曲尺（かねじゃく）・釘抜き

これらは代表的な大工道具の名称です。それぞれどのようなもので、どのようにして使うのかを調べてみましょう。また、実物があれば触ってみましょう。

### 3 木造の家

東京近郊には、鉄筋コンクリートや鉄骨といった材料を使った家も多くみられるようになりましたが、現在でも、日本では気候や文化に適合した木造の家が最も多く作られています。しかし木造といっても、工場であらかじめ切断加工された材木を現地で組み立てるだけのプレハブ住宅が多く、大工道具を駆使した伝統的な木造建築は少なくなっています。

伝統的な木造建築では、現地での作業が大変重要です。別の場所で加工して運び込む材料もあるものの、墨掛（すみかけ。加工のための補助線を材料に墨でひくこと）・鋸（のこ）入れ・鉋（かんな）かけ・ほぞ穴（材料に接合のためにあける穴）の作業を大工道具を駆使して現地で行い、組立てまでを行います。

#### 学習課題3 大工道具を実際にみて、使ってみましょう

伝統的な木造建築を作ったり、修理したりしている建設現場を訪ねてみましょう。そこで、家を作っていく順序や、大工道具の使い方を見てみましょう。また、専門家に指導を受けながら、鋸（のこぎり）・鉋（かんな）・鑿（のみ）などを実際に使ってみましょう。



### 4 木組みの面白さ

伝統的な木造建築の魅力の一つに、「継手（つぎて）・仕口（しぐち）」と呼ばれる木組みの面白さがあります。継手・仕口は複数の材木の接合部分を指しますが、接着剤や釘を使うのではなく、鑿（のみ）などを使って材木の一部を彫り込み、他の材木をはめ込むことによって頑丈な木組みを作る点に特徴があります。

伝統的な日本の木造建築では、継手・仕口が使われる場所はたくさんあります。しかし、場所ごとに、継手・仕口にかかる力の方向や、組み立てる時の順番、室内からどのように見えるかは様々です。そのため継手・仕口には、彫り込まれる部分の形状が異なる様々な種類が存在していて、「目違い」「蟻（あり）」「鎌（かま）」などの名前が付られています。

技術の高い職人は、道具を駆使して材木に加工をするための技能をもち、同時に複雑な継手・仕口の意味を考えながら、一軒の家を仕上げていくのです。

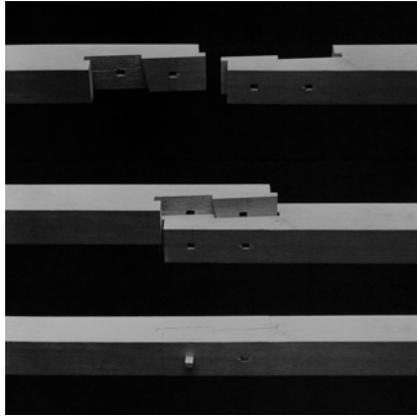
#### 学習課題4 継手（つぎて）・仕口（しぐち）を作ってみましょう

継手・仕口には、土台などに使う簡単なものから、室内の部屋境などに使われる複雑なものまで多種多様です。

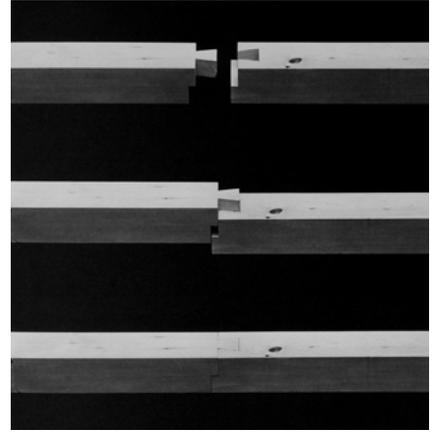
「腰掛け蟻継ぎ」、「追掛大柱継ぎ」は今でもよく使われています。それぞれの木組みを調べ、実際に模型を作ってみましょう。

## 5 美術・工芸の道具

これまで、主に木造建築の道具と工具について、説明してきましたが、木を使って作るものは身近なところにあります。また、図画工作、技術・家庭、美術、工芸の授業で、「本立て」「木彫」などの経験があるみなさんもいると思いますので、これらの道具や工具についてもみてみましょう。



追掛大柱継ぎ (写真撮影・鈴木聡)



腰掛け蟻継ぎ (写真撮影・鈴木聡)

(1) お盆や木製スプーンを作る。

食事のときに使うものの中にも、建築物と同じように様々な道具と工具を使います。

(2) 木彫

大工道具の鑿(のみ)と木彫で使う鑿には違いがあります。木彫に使う鑿には角が丸くなっているものがあります。それは、角で作品を傷つけないようにするためです。このように道具や工具は作るもの、地域によっても違いがあります。

### 学習課題5 道具について比較をしてみましょう

日本の道具を調べると同時に諸外国の道具についても調べると、風土や考え方の違いに気がきます。また、木に使う道具と金属に使う道具にも違いがあります。次の二点について調べてみましょう。

(1) 日本の鋸(のこぎり)と欧米の鋸

(2) 大工道具の玄翁(げんのう)や槌(つち)と金属に使う金槌(かなづち)や鎚(つち)

### 〈参考文献・資料〉

- ・村松貞次郎『大工道具の歴史』、岩波書店、昭和四十八年(一九七三)
- ・土田一郎・秋山実『日本の伝統工具』鹿島出版会、平成元年(一九八九)
- ・濱島正士監修『継手・土口 日本建築の隠された知恵』、INAX、昭和五十九年(一九八四)
- ・内田祥哉『在来構法の研究』住宅総合研究財団、平成五年(一九九三)

## 21 生活に生き続ける江戸の文化

### 1 学習目標

現代に伝わる伝統・文化には、現在も私たちの生活に生き続けているものがある。特に江戸時代に生まれた伝統・文化は、庶民の中に生き続け、今も親しまれているものが多い。また、人々の祈りや生き方を巧みに表したり、意匠（デザイン）にしたりしながら「洒落（しゃれ）」や「粋」といった日本人独自の感性や思いを込めている。

本単元は、今も親しまれている歌舞伎や文楽のことや、ポチ袋や千社札をテーマに、鑑賞し調べる学習と、新たに創る体験的な学習を通して、日本の伝統や文化の変遷を理解する。

### 2 学習内容

- (1) 歌舞伎・文楽・落語などの江戸の伝統芸能
- (2) 「洒落」と「粋」
- (3) 江戸・東京の文化からの創造

### 1 歌舞伎・文楽・落語などの江戸の伝統芸能

日本の伝統芸能は、伎楽や雅楽などが中国大陸から流入され、従来からあった日本固有の神事や民俗芸能に影響を与え、次第に生活と深いかかわりをもちながら発展を遂げて行きました。そして、平安の貴族文化、鎌倉・室町の武家文化を経て、江戸になり庶民の文化として、人形浄瑠璃（文楽）や歌舞伎が根付いていきました。

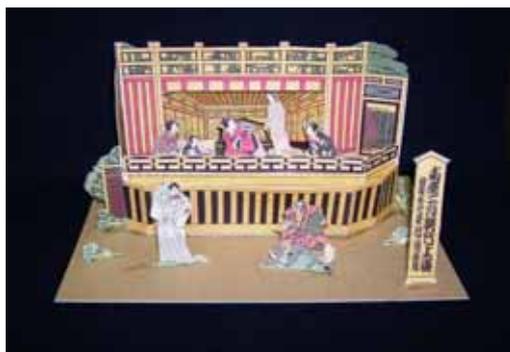
### (1) 歌舞伎

#### 歌舞伎の歴史

歌舞伎は江戸幕府が開かれた一六〇三（慶長八）年出雲大社の巫女お国と名乗る女性が京都で踊った「かぶき踊」が始まりといわれます。「かぶく（傾く）」が名詞化したものだといわれ、歌は音楽性、舞は舞踊性、伎は演劇性を意味しています。元禄（一六〇八）時代になり現在ののような演劇としての歌舞伎が確立されました。

#### 歌舞伎文化の広がり

歌舞伎の魅力は、役者の魅力によるところが大きく、その姿や日常の様子を描いた錦絵や版本が流行しました。また、江戸の人々の生活に深く浸透し、歌舞伎を題材にした玩具がつくりだされました。双六やかつらや衣装を着せ替えた遊び、組上絵（立版古）などは、ペーパークラフトとして形を変え現在も残っているものです。



立版古（模作：竹内紋子）

#### 歌舞伎十八番

七代目市川團十郎が家の芸として制定した十八種の演目のことですが、得意芸を十八番と言い「おはこ」と呼ぶのは、これに由来します。

## (2) 文楽

### 文楽の歴史

文楽は人形浄瑠璃のことですが、人形を使った芸能は奈良時代  
にまでさかのぼれます。また、平安時代以来、人形舞わしの集団  
が、旅興行をしますが、やがて浄瑠璃という音楽と結び付いて、  
江戸時代初期に小屋の芸として定着します。今日の文楽の基礎を  
つくりあげたのが竹本義太夫(初代)と近松門左衛門です。近松  
の書いた台本を、義太夫が独自の芸風の「義太夫節」にのせ、人  
間の喜びや哀しみを描くドラマとして完成させたのです。元禄十  
三(一七〇三)年に初演された「曾根崎心中」は、大ヒットした  
人形浄瑠璃ですが、世界演劇史の中で、初めて町人を主人公とし  
た「世話物」を開拓した記念碑的作品であり、今日でも高く評価  
されています。

近松門左衛門 承応二年(一六五三)享保九年(一七二五)

武士の家に生まれながら、二十歳歳代には、京都で人形浄瑠璃の台本を書く  
作家になった。後に歌舞伎の劇作家としても活躍。本名は杉森信盛という。

### 文楽の太夫、三味線、人形遣い

文楽は、浄瑠璃語りの太夫の魅力的な語り、その語りの伴奏を  
する三味線弾き、人形遣いの三業(さんぎょう)の協力で成り立  
つ三位一体の芸術です。

### 文楽は大阪

大阪の国立文楽劇場が、文楽の中心です。舞台を観るだけでなく

多方面から文楽を調べることができます。東京では国立劇場小  
劇場で観ることができます。文楽の公演形態には二種類あり、  
長編の一作を初めから終わりまで上演する「通し」と、複数演  
目の中の名場面を一段ずつ上演する「見取り」があります。

### 人形

文楽人形は首(かしら)、胴、手、足、衣裳からなり大きさは  
一メートルから一・五メートルで二十キロ近いものもあります。  
主遣(おもつか)い、左遣い、足遣いの三人で人形を操ります。

## (3) 落語

### 落語の歴史

落語は、江戸時代の始めに成立し現在まで伝承されている  
話芸です。基本的に衣装や道具、音曲を使わず、身振りと言  
り対話形式で物語を進めます。本来「落語」とは、落語家  
が行う演目(ネタ)のなかでも滑稽を中心とし、落ち(サゲ)  
をもつ「落とし(ばなし)」のことを指しましたが、現在では  
人情噺・芝居噺をも含めた総称として用いられています。また、  
古典落語だけでなく新作落語も人気があります。

### 寄席(よせ)と小道具

落語は寄席と呼ばれる演芸場で演じられます。寄席では落語  
のほか漫才・講談・浪曲・奇術などが演じられます。落語  
家は着物姿で高座に座り独演します。扇子と手ぬぐいは、落  
語家の大切な小道具で、扇子は、筆や箸、刀、槍、船を漕ぐ  
櫓(ろ)、煙管(きせる)などに、また、広げて手紙や証文な  
どに見立てます。手ぬぐいは、本や財布、煙草入れ、焼き芋  
などにも変身します。

## 2 洒落と粹

「洒落」とは、気の利いたさまや新奇な趣向、頓智(とんち)をきかせること、滑稽(こっけい)なことなど、ユーモアのセンスを言います。また、「粹」は、「意気」から転じた言葉で、さっぱりとあかぬけていて、しかも色気をもっていることを指します。江戸では「粹」を「いき」と呼びますが、関西では「すい」と呼びます。

### (1) 現代に残る「洒落」と「粹」

洒落とおしゃれ

私たちが生活の中で使う「おしゃれ」は、身なりを飾ることを意味していますが、江戸の洒落にはいろいろ使い方があり、また、こだわりがありました。江戸の庶民は、いかに目立つかよりも、いかにさりげないか」を大切にしてよかったです。着物でも、遠くからみると無地に見えるけれど、近くで見ると細かな柄を入れるなど、願いや思いを込めていました。

粹

粹という概念をいくつかの例をとって説明してみます。

- ・めでたいときに、お金がなくても見栄を張って鯛を食べた。
- ・粹な人は、「隠す美学」があり、苦勞をしてもそれをさらりとやっています。

・江戸前寿司では、握りたての寿司をその場で一口に食べなげや粹と言えないという慣習がありました。

### (2) 建物にみる江戸の粹

江戸を代表する建物に、桂離宮(京都)と日光東照宮があります。桂離宮は一六一五から一六六二年、東照宮は一六一六から一六三六年とほぼ同年代に造られました。両者は対極的な造形をもつと言わ

れてきました。

「わび・さび」を大切にした簡素な桂離宮

絢爛豪華な装飾でみやびの日光東照宮

しかし、一九七六年より桂離宮の昭和の大修理が行われた結果、かつて桂離宮の意匠はもつと華やかであったことが分かりました。

桂離宮の建築には、趣向を凝らした装飾性が観られます。松琴亭の床やふすまの市松模様は鮮やかな色彩で現代にも通じるモダンなものです。また、桂棚(かつらだな)と呼ばれる違い棚もその組み合わせは大胆な発想で造られています。

一方で、日光東照宮もまた、厩舎に猿の彫刻「見ざる・言わざる・聞かざる」があったり、日だまりでくつろぐような「眠り猫」が日光の象徴だ、うたた寝する猫の裏側には楽しそうに遊ぶ雀の彫刻があり、この二つで「平和」を表していると言われたりするなど、匠(たくみ)の技や洒落つけが見られます。

### 学習課題

「粹」は、「意気」から転じたと言われています。また、現代の言葉では「かつこよい」が近いと言われています。あなたにとって「かつこよい」ものとは何ですか。

## 3 江戸・東京の文化からの創造

### (1) 千社札やポチ袋のデザイン

デザインと意匠

いわゆる「デザイン」と「意匠」は似ているようで違った使い方がされます。意匠の法律から、日本の「意匠」について考

えてみましょう。



## ア 「意匠」の法律について

### ・意匠法第一条

「この法律は、意匠の保護及び利用を図ることにより、意匠の創作を奨励し、もつて産業の発達に寄与することを目的とする」

意匠は、物品のより美しい外観、使つてより使い心地のよい外観を探求するものです。そして、その外観は、一見してだれにでも識別することができます。このため、容易に模倣することができ、不当競争などを招き健全な産業の発展に支障を来すこととなります。そこで、意匠制度は、新しく創作した意匠を創作者の財産として保護する一方、その利用も図ることを定めて、これにより意匠の創作を奨励し、産業の発達に寄与しようというものです。

(特許庁ホームページ参照 <http://www.jipo.go.jp/>)

## イ デザインしてみましょう。

千社札やポチ袋は、日本人の洒落や粋から生まれたものです。私たちが考えたものが後世に「意匠」として残るかもしれません。このような気持ちをもって、デザインしましょう。

(ア) 千社札：神仏へ参詣したとき、自分の姓、名、屋号を記した札を納め、家内安全や商売繁昌などを祈願したのが始まりです。

はじめは題名納札(のうきつ)と呼ばれましたが、千社詣りに貼るようになってこの名が付きましました。

(イ) ポチ袋：江戸では祝儀袋と呼び、関西ではポチ袋と呼ばれていましたが、ポチ袋が一般的になりました。

「これっぽち」というところからポチ袋と言われたとも言われています。お正月のお年玉袋として現代も使われています。

当時は、両方とも木版画でつくられ、書家、絵師、彫師、刷師が力量を競い合いました。浮世絵と通じる日本の文化です。

楽しくデザインするための条件

- ・「洒落」や「粋」の感覚を大切にしましょう。
- ・独創性のあるものを考えましょう。
- ・日本の伝統的な技法(文字や色使い)に学びましょう。

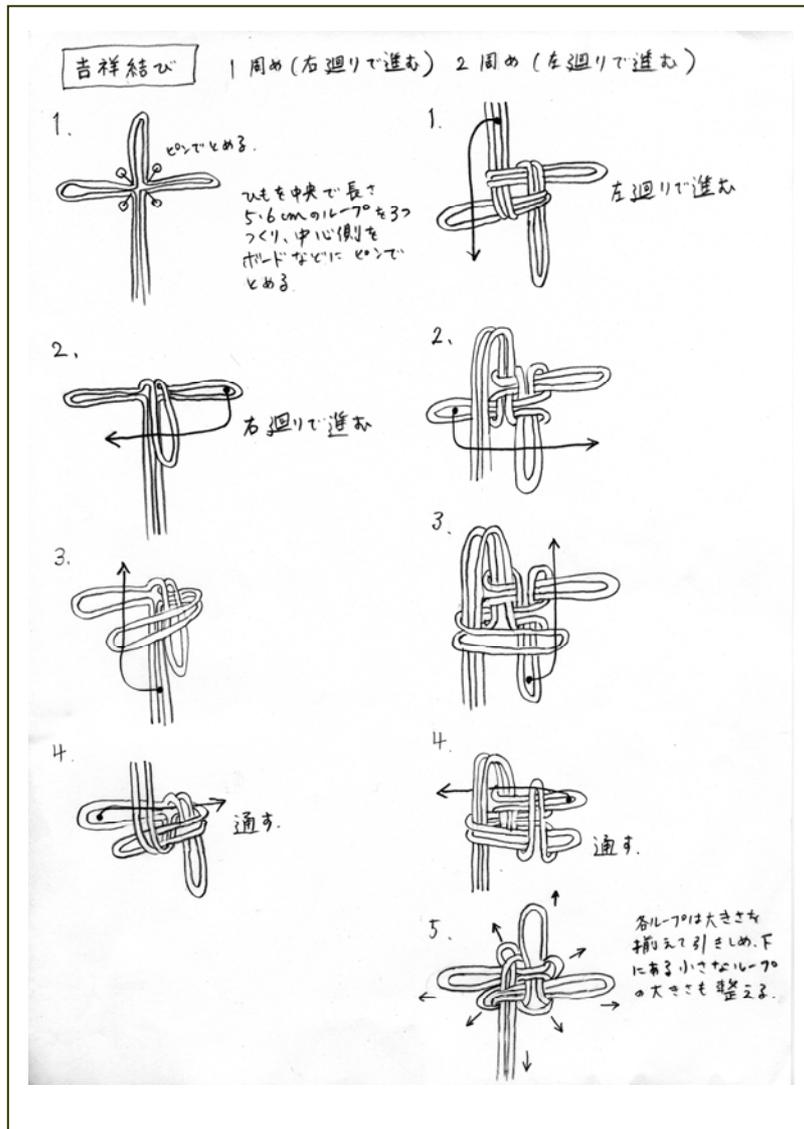


写真は、継紙と吉祥結び

イ 「組み紐」と組み合わせてみる。



ア 継いだ紙を使ってみる。  
日本の伝統的な技法と組み合わせて、  
創造的な工夫を考えてみましょう。



吉祥結びの結び方

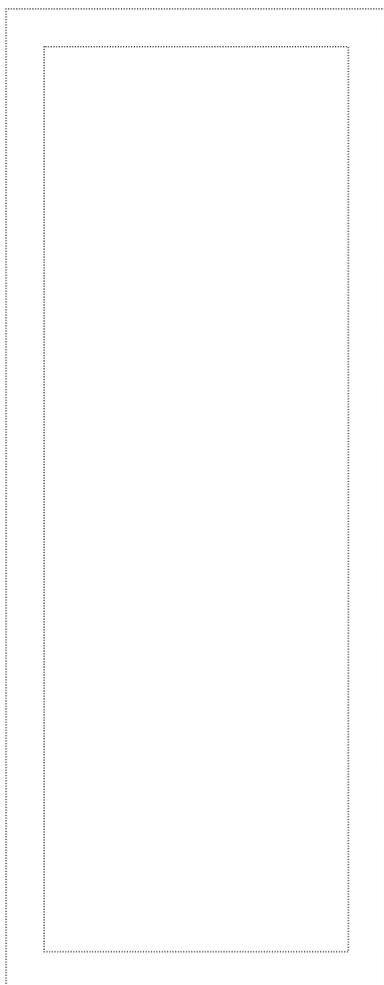
(2) ポチ袋や千社札をつくってみよう

ポチ袋や千社札を現代の生活に合ったものにつくり直してみよう。

現代版「千社札」



〔生徒作品例〕



「ポチ袋」を發展させて、巾着袋や袋をつくる。



〔生徒作品例〕

【發展学習】

(1) 本単元を基に自分の「意匠」をつくってみましょう。

(2) 互いの作品を鑑賞し合ひましょう。

〈参考文献・資料提供等〉

- ・ 日本芸術文化振興会
- ・ 中川俊宏（国立文楽劇場事業推進課長）
- ・ 竹内紋子（彫刻家）
- ・ 東京芸術大学学生

## 22 武道に学ぶ

### 1 学習目標

日本の武道を代表する「柔道」と「剣道」などを取り上げ、武道の中に息づく日本人の心について考える。武道における勝負とは何か、また、道を究めるといふことは何かを考えることで、日本人の精神性を見付ける。

### 2 学習内容

- (1) 武道 (2) 柔道 (3) 剣道
- (4) 様々な武道 (5) 武道と現代生活

### 1 武道とは

武道は「おこなう」だけではありません。「みる」ことで感じることができません。テレビを通して武道に触れ、一瞬の動きや勝負の駆け引きに胸を躍らせることも多いでしょう。試合前の緊張感や試合中の研ぎ澄まされた技の出し合い、試合後の両者の表情や、インタビュールの中に試合中の心の動きを知り、私たちは一喜一憂します。そのようなとき、勝つことだけが武道ではないのだと気付かされることが多いあります。

日本の武道においては、勝つことより大事なことがあると、よく聞きます。「礼にはじまり礼に終わる」「試合に勝って勝負に負ける」などの言葉は日本人独特の精神性なのではないでしょうか。ここでは「武道」を代表する柔道と剣道を例に日本人の心を考えてみましょう。

### 2 柔道

みなさんの柔道に対するイメージはどのようなものでしょうか。現在の柔道は、国際化・競技化・スポーツ化が進み競技成績や勝敗が注目されています。

しかし、柔道の言葉に「柔(じゅう)能(よく)剛を制す」というものがあります。二十一世紀を迎えた今、柔道の原点に立ち返ろうという動きが盛んになっています。

#### (1) 「JUDO」と柔道

柔道は競技スポーツ化がより進行し、国際的広がりを見せています。オリンピックでも多くの国の柔道選手が活躍し、それは、我が国発祥の柔道が国際的なスポーツとしてその地位を固めたということであり大変喜ばしいことです。

現在、柔道の創始者である嘉納治五郎師範が柔道修行の目的として位置付けた「己の完成」「世の補益」が注目されています。競技としての柔道を積極的に奨励するとともに、人間の道としての理想を掲げ、その実現を目指そうとするものです。今、柔道は、日本のスポーツから世界のスポーツ「JUDO」へと発展しました。だからこそ、日本の伝統・文化のもつ精神性を一層世界に発信していくことが重要です。

#### (2) 柔道の歴史

柔道の基を築いた講道館は、一八八二年に、嘉納治五郎師範により創設されました。柔道の源流は柔術で、いろいろの名称や流派がありました。統一性はありませんでした。嘉納師範は、柔術各流派の長所を分析し、工夫と研究を加えて講道館柔道を考案したのです。昭和三十九(一九六四)年の

東京オリンピックで男子の正式種目となり、平成四（一九九二年）のバルセロナオリンピックで女子も正式種目となりました。

### コラム 山下泰裕（柔道ルネッサンス委員長）の講演から学ぶ

（平成十八年三月十七日）

白石先生の言葉・・・「柔道を一生懸命にやることで、強くなるだけではなく、相手を思

いやる心、助け合う気持ち、我慢すること、ルールを守ること、力を合わせることで、こんなことを皆は学ぶはず、これは学校の勉強では学べないけれど、みんなの人生にとって非常に大事なことで、しかし、みんなが柔道だけ



東海大学体育学部  
教授 山下 泰裕

一生懸命に頑張つて、勉強を頑張らなかつたら、柔道は完璧になれるかもしれないが、柔道を通して得たものを人生で生かして、人生の勝者になることは難しいだろう。柔道にとって一番大事なことは、単に柔道のチャンピオンになることではない、柔道で学んだことを生かして人生の勝者になることだ。社会に出て可愛がられる人間に、役に立つ人間に、活躍出来る人間になること、これが大事なんだよ、このこととみんなの練習は繋がっているんだよ、だから柔道だけではない、勉強もしっかり頑張らなければいけない、そして人生の勝者を目指していきなさい。これだけの話を、私たちに分かりやすくお話してくださいました。文武両道、そして柔道を通して人生の勝者を目指せ。今でも強く心に残っています。

シドニーオリンピックより・・・篠原は一生懸命頑張つたのですが、誤審で残念ながら銀メダルに終わりました。終わった後の記者会見、篠原はこう言いました。「自分が弱いから負けたんです。審判に不満もあります。」言いたいことはいっぱいあると思います。それと同時に彼の心の中には、「一本」ではなく例え相手のポイントになったとしても、残り時間が三分半あった。俺に本当の力があつたら、三分半で逆転できた。負けたのは俺に本当の力がなかつたからだ。そういう思いもあつたのではないかと思えます。あれが日本人でなければ、他の国の選手なら多くのマスコミを前にして、ビデオを見せながら涙を流しながら全身の手振り身振りで世紀の大誤審を世界にアピールしたのではないかと思えます。なんでそういうふうにしなかつたのか、篠原はしゃべれないのか、そういう声もありました。実際は違います、我々が失いかけていた美しい心を篠原はもっていた。人を責める前に、もつと自分出来ることがあつたんじゃないか、そんな思いをもつていたからあのような言葉になったのではないかと思えます。我々は柔道を通して、本来あるべき日本の心をもつともつと大事にしていかなければならないと思えます。

余談ですが、その後、私はずっと「俺に何かできたのではないか、俺が抗議すれば銀ではなく金になれたのではないか」そんな思いを持ちながら日々を送っておりまして。ある日、夜中眠っているときにへんな声が聞こえました。「山下、いいんだよあれで。あれはあれでいいんだ、もう気にするな。篠原がとつたメダルは銀じゃないよ、あれはプラチナだよ。そのことだけは忘れるな」そうだ、あの戦いにはプラチナが一番相応しいのかな、そう思います。

### 学習課題 1

名勝負について調べたり、ビデオを鑑賞したりしながら、武道について、みんなで紹介し合ってみましょう

## 3 剣道

日本の武士が剣（日本刀）を使って相手を倒す手段が「剣道」の始まりだと言われています。室町時代から戦国時代にかけての戦乱の世を背景に、様々な流派が登場し発展をしていき、江戸時代に剣道の原型が完成されていきます。防具や竹刀が考案され、現代の剣道の試合や稽古で使われるようになりました。

### (1) 剣道の心

剣道を学ぶということは、武士の精神を学ぶことでもあります。剣の操法を稽古を通じて学ぶことで「人間形成の道」を見つけることが、大きな目的だからです。

### (2) 剣道から日本の伝統を学ぶ

剣道には、「はかまの着方」「手ぬぐいの巻き方」「面・胴・垂れの付け方」「座礼・立礼の仕方」「竹刀の握り方・使い方」等において、武士の精神に基づくものが多いとあります。つまり、日本の風土や生活環境の歴史の中で形作られたものなのです。

### (3) 礼法

剣道は「礼に始まり礼に終わる」と言われているように、特に礼儀作法を重んじ、厳格に行われてきました。剣道は格闘技の一つであるので、時には闘争的な本能を出すこともあります。それを、人間的に統制するところに礼の意義があり

ます。人の心は形に表れるもので、常に相手の人格を尊重し、互いに心を練り、体を鍛え技を磨くためのよき協力者として、相手に心から感謝しつつ、端正な姿勢をもって礼儀作法を正しくすることが大切なのです。ここでは、座礼と立礼を取り上げます。

### 座礼

直立の姿勢から左足を一步後ろへ引き左膝（ひだりひざ）を先に、右膝の順に上半身を自然にまっすぐに保ったまま両膝をそろえて床につけます。そして、両足の親指を重ねるか、またはそろえたかかとの上に腰を下ろします。背筋を伸ばし、肩の力を抜き、両膝は少々開き、両手は軽くももの上に置く、正座の姿勢で相手に注目し礼をします。両手は同時に膝の間で親指と人差し指が三角形をつくるように静かに置き、礼の後、同時に床から手を離します。首を曲げたり、腰を上げたりしてはいけません。

### 立礼

相手に注目し、自然体に立ちます。その後腰を支点に上体を約十五度ぐらい前傾させ頭を下げます。少しの間（一呼吸程度）その姿勢を保った後、静かにもとの姿勢に戻します。神前、上座、上席への立礼は、上体をもう少し深く前傾させます。

## 学習課題2

「剣道」の礼儀作法を参考に私たちが現代生活の中で心掛けて  
いることを次の点からまとめてみましょう

・あいさつの仕方

・年長者との接し方

## 4 様々な武道

(1) なぎなた

「馬を薙ぎ払う」という意味から名付けられました。室町時代の終わりごろに始まり、江戸時代には女性の護身のために、明治以降は男子の剣道とともに、主に女性の武道として発展してきました。

(2) 弓道

江戸時代に心身鍛練の弓道は確立しました。明治になり京都に弓道の会派が創立されます。弓の起源は更に昔にさかのぼれますが、源頼朝が鎌倉幕府を開いたとき、弓馬の修練をもって精神の到達点として武士の道義を確立したと言われています。鶴ヶ岡八幡宮の流鏑馬(やぶさめ)の盛儀は今日に伝わっています。

(3) 合気道

合気道は、日本伝統の武道の奥義を究め、更に厳しい精神的修行を経て発展した現代武道です。合気道は競技を行いません。互いの習熟の程度に合わせて技を繰り返し稽古し、心身の練成を図ることを目的としています。



## 5 武道と現代生活

「礼儀作法」「勝負」「稽古」「修練」「心技体」「真善美」など、私たちが現代生活の中で忘れがちな心や技が武道の中にはあります。現在、世界で活躍する日本人の多くは、日本の伝統・文化に裏付けられた技術や心遣いで成功していることが多いようです。また、外国人が「武道」を習いに日本にやってくる人が多くなっていますが、強さを求めるだけでなく、これらの日本の心を求めてやってくる人が多いようです。

### 学習課題3

日本には様々な武道がありますが、その中から興味のある武道を取り上げ、現代生活に生かせる点を考えてみましょう。

### 《参考資料・協力等》

- ・(財)日本柔道連盟 講道館、山下泰裕
- ・(財)全日本剣道連盟



### 学習課題 考えて、調べて、実践してみましよう

- ・世界中に「将棋」のようなゲームはいくつくらいあるでしょう。
- ・将棋は「指す」、囲碁は「打つ」、なぜこのような表現なのでしょう。
- ・新聞・雑誌にある将棋欄の「棋譜」を見て、駒を並べてみましょう。
- ・将棋から出た「金言」「ことわざ」「格言」「用語」が日常使われることがあります。どんなものがあるか調べてみましょう。

### コラム 棋道と人徳

日本の伝統文化の特徴は、ほとんどのものが「道」につながっていることです。江戸時代も今も変わらぬものも多く、貴族、武士、町民とそれぞれ生活が変わっても、お茶を飲み、お花を分け、竹刀を持って町道場に通います。年の瀬には除夜の鐘を撞き、年が明ければ初詣をします。「人間の生きる道しるべ」としてすべてに共通しているのが「道」であり、これこそが日本の文化なのです。

華道、茶道、武道（剣道、柔道など）とすべて道に昇華させました。神仏も同じで、神道（しんとう）、仏道です。仏門に帰依するといふのは、仏道の門を入ることです。

将棋は元来庶民の遊びであったのでしよう。しかし駒の字が読めなくては指せませんからある程度の教養は必要だったと思います。日本最古の駒は現在では興福寺と朝倉の遺跡から出土しています。これも興味深いことです。

将棋と囲碁は「棋道」としてひとつのくくりになっています。



日本将棋連盟  
会長 米長 邦雄

将棋の駒は木で作ったものであり、王将を詰ませば勝ちです。囲碁は黒石と白石を使ってより多くの陣地を囲めば勝ちになります。

将棋、囲碁と分類はされていますが、「棋」と「碁」は同じ字なのです。木だから棋、石だから碁なのです。将棋と囲碁の語源を調べるのも有力な課題のひとつでしょう。

将棋の源は古代インドというのが定説ですが、はっきり分かっていません。チェスや中国象棋なども源は同じではないかという説。王様にあたる「キング」「将・帥」を詰ませれば勝ちという点が同じだからです。それと驚くのは、並べたときに端から二番目に桂馬と同じ働きをする駒があることです。珍しい動き方で、これが端から二番目にあるところが、元が一緒という説の裏付けにもなっています。チェスのナイト、中国象棋の馬、将棋の桂馬はそれぞれの動き方に差異がありますので調べてみてください。チェスと象棋は駒の動きが大きく大陸的ともいえます。日本の将棋は細かい。タイのマックルックなどに似ています。中国から渡って来たのであれば、象棋や朝鮮半島で盛んなチャンギに似ているはずなのですが、東南アジアの様式に似ている点が多いのはなぜでしょう。あくまで個人的な見解ですが、将棋は陸からではなく海を渡って来たのではないかと思っています。日本の将棋の一大特徴は、取った駒を使えることにあります。日本だけのルールです。このルールこそ日本文化の真髄ともいえます。これも研究する値打ちがあるものです。

礼に始まり礼に終わる。将棋の中に込められた「道」を学んでください。

日本古来からの伝統文化を学び、道を訪ね、そしてそれぞれの道から人間性を高める。道を訪ねて人徳ある人間に成長する。それが「道徳」なのです。



## 2 将棋からみた日本文化

### (1) 「棋道」

日本の伝統文化はすべて「道」に通じています。「お茶を点(た)てる」「お花を活(い)ける」「茶道、華道それぞれの「道」に通じた言葉遣いです。

将棋と囲碁に共通するのは「其(き)」。囲碁は石を使うので「碁」となり、将棋は木で作られるので「棋」となっています。それゆえ「棋道」は将棋と囲碁の双方を指します。「棋の心」をもって「道」に通じます。

### (2) 先を読む

相手が指す手に対応しているばかりでは、一方的な将棋になってしまいます。相手の指してくる手を予想しますが、棋士は例え百通りの手があっても、二〜三手先を読んで可能性のある手を残し、あとの手を捨て去るという方法で読み進めます。じっくりと先を読んだり、数手先から考え方を変えたりできるところが日本人の気質に合っているように思います。

### (3) 定跡

将棋には、定跡や手筋という、先人が残した公式のようなものがあります。棋士の記憶の中には、それが修行時代から無数に蓄積されており、局面ごとに戦況を判断する手掛かりとなります。先を読む際にも、これまで蓄積した手筋などから組み合わせを考えていきます。

### (4) 木の文化

駒の材料は、黄楊(つげ)が最上と言われています。特に、東京都の御蔵島(伊豆諸島の一つ)の波風に鍛えられた黄楊は、美しい木目から最高級品として評価されています。

文字も単に字を彫るだけでなく、彫った部分をすべて漆で埋める「彫り埋め駒」や漆を盛り上げて作る「盛り上げ駒」があります。駒の文字にはいろいろな書体があります。

また、将棋盤は宮崎県日向産の榿(かや)が、美しさや色とかおりで最上の部類です。材料になる榿材は三年から十年も乾燥させてからつくります。厚さ七寸盤(約二十一センチメートル)で盤の下にクチナシの実をかたどった彫りものがあり、四本の足がついているものは芸術品と言われています。彫り物は湿度の変化で盤が変形

しないためのものですが、なぜクチナシかというと、指しているときに対局者以外のものが余計な口出しをしないように「勝負にクチナシ」と戒めが込められていました。さらに、盤面の線引きには日本刀を使うなど、様々な伝統技法によって作られています。

(5) 日本人の国民性を表す

棋士は、これまでと違った道を探すことを楽しみます。「道」を苦しみながらも考え、考えることが楽しく思う気持ち、言葉を言い換えれば遊ぶ心をもつものが勝利を収めることが多いものです。自らの水準を高めるには、良く学び、学ぶことそのものを楽しむのです。

### 学習課題2 調べてみましょう

- ・「先を読む」とはどこをどのところを読むのでしょうか。
- ・先人の作った定跡にはどのようなものがあるのでしょうか。
- ・盤駒で最高級品の榿や黄楊の木以外では、どのようなものが使われますか。
- ・駒の文字にはいくつか「書体」があります。どんな書体があるのでしょうか。

## 3 将棋の特質

(1) 駒の配置と伝播ルートのかかわり

世界中にはいろいろな将棋があります。代表的なものはチェス、中国の象棋(シャンチー)、タイのマックルック、モンゴルのヒヤールシャタルです。これら日本の将棋も含めて共通しているのは盤の端から二番目に将棋の「桂馬」と同じような動き方をする駒が配置さ

れているということです。この特異な駒の配置から、すべての将棋はインドが発祥の地であるという論拠の一つになっています。日本への伝播の時期、ルートは諸説ありますが、仏教伝播の頃というのが一つの定説となっています。日本将棋の駒の動きは、チェスや象棋よりも東南アジアのタイ周辺の将棋に似ています。大陸経由説のほか海上ルート説も根強いのはそうした理由からです。



チャンギ(中国)



マックルック(タイ)

(2) 日本の民族性

将棋は取った駒が使えます。これは世界中にあるゲームの中で将棋だけのルールです。また、駒の、玉・金・銀・桂・香は「仏教の五宝」とも呼ばれる点も興味深いところです。世界の将棋の駒は、立体であったり、色で分けたり、一文字で書かれたりしていますが、日本の将棋の駒は、二文字です。宝物を必ず人や乗り物で運んでいるような形であり、例えば「玉将」「金将」「銀将」は将(人)、「桂馬」は馬、「香車」は車となっています。将棋の神秘的な部分を感じさせます。

(2) 独創性

「豆知識」

日本の将棋は常に初形の駒数と変わりません。変わるのは、どちらの駒数が多いかで勢力図が分かれます。相手を味方につけることで、戦いを最小限に押さえる方法がなされました。このようなルールにも日本独特の文化を見出せます。

(3) 大衆性

学習課題3 日本の伝統・文化を踏まえて、「将棋」について次の三

つの視点からまとめてみましょう。

(1) 伝統性

《参考文献・資料提供等》

・日本将棋連盟 <http://www.shogi.or.jp/>

## 24 囲碁に学ぶ

### 1 学習目標

本單元では、囲碁の発祥から、日本へ伝来した囲碁のルーツを探り、日本文化として確立した囲碁の歴史を学ぶ。

また、実戦対局を体験し、基本ルール、地や石の生存という囲碁の基本知識としての概念を理解し、囲碁の思想、理論を学ぶ。そして、棋道という伝統的な考え、精神文化を囲碁の礼法を通じて理解するとともに、囲碁の国際化によって将来の日本文化としての役割を考える。

### 2 学習内容

- (1) 囲碁の歴史と文化(囲碁の発祥、日本への伝来、正倉院の碁盤、文学・美術とのかわり、御城碁)
- (2) 囲碁の基本知識(基本ルール、地を囲う、石を取る)
- (3) 囲碁礼法と国際化(囲碁礼法と対局マナー、囲碁の国際化)

### 1 囲碁の歴史と文化

#### (1) 囲碁の発祥

囲碁のはじまりは、四千年ぐらい前の中国だと言われています。古代中国の皇帝(堯帝・舜帝)が、子どものしつけのため、囲碁を創作したという起源伝説(博物誌)、また碁盤は宇宙、碁石は星のかわりで、天文や地象、曆、易に使ったという話があります。碁盤の線と線の交点は天を回る一年を示し、盤を四分するのは四

季をかたどっています。そして石の白黒を陰と陽になぞられたからだとされています。

中国の古い書物(論語・孟子)には囲碁のことが書かれ、紀元前七七〇～前二二二年ごろの春秋・戦国時代には、囲碁は戦略、政治、人生のシミュレーションゲームとして広まったようです。

古くから中国では、君子のたしなみとして「碁棋書画」(きんきしよが)を子どものころから習わせたのです。琴(きん)は音楽、棋(き)は囲碁、書(しよ)は書道、画(が)は絵のことで、立派な王になるには囲碁の勉強もあつたわけです。

#### (2) 日本への伝来

囲碁が日本に渡ってきたのは、いつごろなのかははっきり分かっていません。

奈良時代(七一〇～七九四)に吉備真備(きびのまきび)が遣唐使として唐から持ち帰ったという話がありますが、既に六三六年の隋書・倭国伝には日本人が囲碁を好むことが記され、七〇一年の大宝律令・僧尼令などにも囲碁のことが記されていますので、日本への伝来はそれ以前からということになります。

#### (3) 日本最古の碁盤

奈良の正倉院には、聖武天皇(七〇一～七五六)の遺品や当時の記録・品物が多く納められています。その中に、碁盤三面、碁石四種類(二組)や碁笥(こけ)碁石を入れる容器(が)が保存されており、特に「木画紫檀碁局」(もくがしたんのききょく)の碁盤は有名です。

この盤のタテヨコ十九本の線は象牙、側面には文様、細密な木画が施され、盤面の星は十七個(現在の碁盤は九個)です。

古代（後漢）の碁盤はタテヨコ十七×十七路で五つの花点（星）がある盤でしたが、その後、隋時代になると十九×十九路で五花点の盤に変わっています。古代中国では最初に白黒二個ずつ対角の星に置き合ってから打ち始める事前置石制（五星）、朝鮮では、白黒八個ずつ置いてから打ち始める事前置石制（十七星）でした。「木函紫檀碁局」は朝鮮の碁盤と同様の十七星です。碁盤の



線は十七路から十九路へ変更され、また囲碁が日本へ伝わってから、事前置碁制から置石なしで自由に打ち始める碁へと囲碁が進化するとともに、日本独自の囲碁に、また日本の文化として囲碁は変移し完成されていきます。

#### （4）文学・美術とのかかわり

奈良時代（七一〇～七九四）日本で最初に「碁」の文字（淤能碁呂嶋 おのころじま）が用いられたとされる「古事記」（七一二）や「風土記」（七二三）、常陸国風土記の碁石（日本初の漢詩集「懷風藻」（七五一）、遣唐使弁正法師）には碁に関する記事が記されています。

平安時代（七九四～一一九二）は京都に都がおかれ、貴族中心の時代であり、唐風文化から遣唐使の廃止で国風文化に代わっていく時代です。

学問の神様として有名な菅原道真（八四五～九〇三）も碁を愛した一人で、囲碁の歌を残しています。後年、大宰府の遺跡から数百個もの碁石が出土しています。

平安前期にあつては「日本後記」「続日本後記」「日本文徳天皇実録」「日本三代実録」などの、いわゆる六国史を中心に碁の記事があまりみられません。そのころの文学として有名な紀貫之らがまとめた「古今和歌集」、紫式部の「源氏物語」、清少納言の「枕草子」などにも碁が登場しています。碁が単なるゲームにとどまらず、日常生活でも碁に事寄せた会話が交わされており、源氏物語絵巻では「空蝉」「竹河」「宿木」「手習」に对局の情景があり、宮中の女性たちなど当時の宮廷を中心とした貴族社会で碁が非常に好まれていたことが分かります。

宮廷、貴族に広まった碁は、その後、武士や僧侶などの知識階級へ、また次第に農業、商業の人々の間にも広まっていきます。

#### （5）御城碁

安土桃山、江戸期は、大名、大商人が中心として活躍した時代です。

当時碁の名手として聞こえていた日蓮宗僧侶の日海（一五五九～一六二三）は、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の碁好きに仕えたといわれています。日海は、一五八八年、秀吉から「官賜碁所」に任ぜられ、後に「本因坊算砂」と名のり、家康から「名人碁所」に任ぜられました。これにより日海は幕府公認のプロ棋士となり、また江戸幕府の保護育成政策によって碁は国技となったわけです。

一六二六年には御城碁が始まります。家康が御城に碁打ちを招き、観戦したことが始まりで、碁はますます発展していくことになりました。御城碁や家元制度の確立によって発展した江戸期の碁は、現在にも受け継がれ、さらに世界約七十か国地域、四千万人に碁が普及する基盤となっています。

## 2 囲碁の基本知識

囲碁は碁盤と黒石・白石の碁石、碁石を入れる碁笥(こけ)を使います。碁盤にはタテヨコそれぞれ十九本の線が引いてあり、十九路盤といいますが、入門練習用では九路盤、十三路盤などの小型盤を使います。

・ 囲碁の基本ルールは次の四つです。

線と線の交点に打つ。

黒白交互に打つ。

(一度打った石は動かさない。)

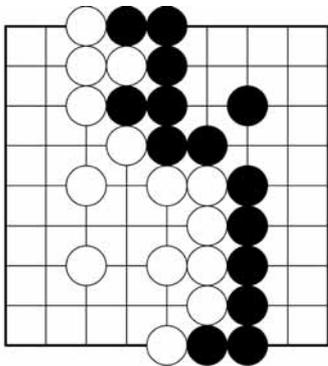
陣地の多い方が勝ち。

囲めば石を取れる。

(1) 陣地の多い方が勝ち(地を囲つ)碁石を打って、例えばこのよう

になったとしましょう。右が黒、左が白の陣地です。互い自分の石に囲まれている場所が陣地で、地(じ)と言います。

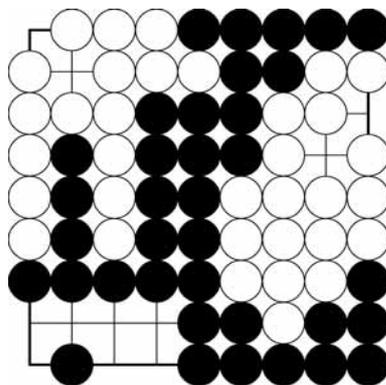
それでは計算です。地(線と線の交点)がいくつあるか数えましょう。黒の地は二十四。この黒地を二十四目(もく)と呼びます。同じ



要領で白地は二十九目。五目の差で白が勝ちました。この結果を「白五目勝ち」と呼びます。

### 練習課題

実際の対局となると地は一か所だけとは限りません。さて、下図はどちらの何目勝ちでしょうか。



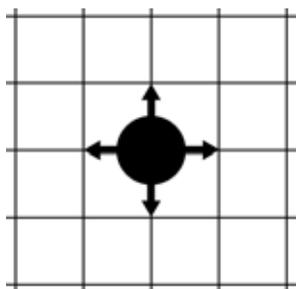
(黒地は七目。白地は二か所で合計四目。正解は黒三目勝ちでした。)

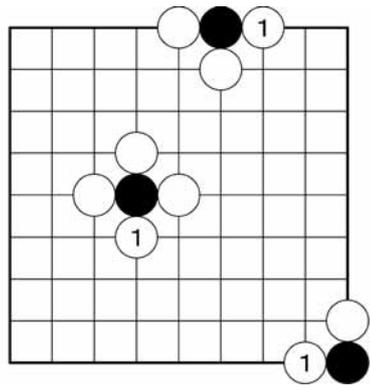
(2) 囲めば石を取れる

囲碁は陣地(地)の多い方が勝ちとお話しましたが、「地」のことはしばらく頭の片隅に追いやって、もうひとつ「石を取る」ということも学びましょう。

下図の黒石一個。これは碁盤の線にそって矢印の四つの方向にエネルギーを出しています。

これを「呼吸点」と呼びます。



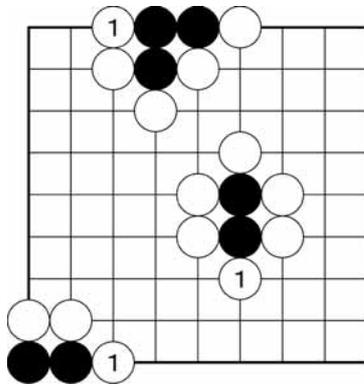


上図を見てください。黒石は白1と打たれて呼吸点を全部ふさがれてしまいました。呼吸点のない黒は、もう生きていけず取られてしまいます。石一個の呼吸点は四つですが、図上のように盤端になると三つ、図右下の隅になると二つになります。

取られる石は一個だけとは限り

ません。下図のように白1と囲まれると黒石は取られてしまいます。二個でも三個でも何個でも呼吸点を全部ふさがれば取られてしまうのです。

囲碁は「地を囲う」、「石を取る」という二大要素で成り立っているゲームです。この二つの要素が絡み合うため、面白く奥が深いゲームになります。



### 3 囲碁礼法と国際化

#### (1) 囲碁礼法と対局マナー

囲碁は「棋道」(きぎどう)と言います。「棋」は囲碁や将棋の意味です。

柔道、剣道、茶道、華道などと同じく、昔から技芸の品位と礼儀を尊重してきました。対局相手に不愉快な気持ちを与えず、勝負は盤上でフェアに競うということが対局マナーの基本です。

囲碁は自分の考えで打ち、勝ち負けは自分の責任で自己評価しなければなりません。この勝ち負けによる喜び、悲しみの葛藤が「生きる力を養う」チャンスとなります。著名なプロ棋士でさえ、勝率六十パーセント程度で四十パーセントは負けの記録です。この負けたときこそ、失敗の原因を追究し、さらに技芸を磨くわけですが、同時に対局相手の気持ち痛いほど分かるので、相手に対し尊敬と感謝の念をもって対局に臨んでいます。

この「人を思いやる気持ち」「感謝の心」が、礼法につながります。

対局開始時に双方一礼をし、終局時はまた一礼で終わる。  
一度盤上に置いた石をハガシて別の場所に置き直さない。  
対局中のおしゃべり、観戦者の口出しは厳禁  
投了(中押し)は、潔く「負けました」「ありません」と宣言  
棋具をいたわる(石で碁盤をむやみにたたくことなどしない)。

#### (2) 囲碁の国際化

年齢、性別を問わず、国境も関係無く誰でも楽しめ、コミュニケーションに大変役に立つ囲碁の発展は、世界平和が願いです。

昭和五十四年、第一回世界アマチュア囲碁選手権が開かれて以来、毎年参加国が増え、現在六十九の国や地域(二〇〇六年十月)からの代表選手が出場する大規模な大会となっています。日本の文化である囲碁は、今や世界に広まり、世界中で囲碁を打つ人は、推定約

四千万人で、世界の人口は約六十四億人ですから、一六〇人に一人は囲碁ファンがいることになりました。

囲碁人口ベストテンは、中国、韓国、日本、台湾、アメリカ、ロシア、ドイツ、イギリス、オランダ、ブラジルです。

日本と中国、韓国、共通の文化へ

中国では現在、囲碁は体育スポーツの一つとして政府が応援しています。

囲碁の才能ある子どもは、「少年宮」「体育宮」と呼ばれる専門教育機関で学んでいます。

韓国でも、囲碁が大変盛んです。子ども囲碁教室が全国で千校以上もあり、子どもたちの習い事のベスト三に囲碁が入っています。

日本でも、囲碁を扱った漫画が人気となり、囲碁ブームが起きています。

諸外国の囲碁

アメリカ、ヨーロッパ、大洋州でも囲碁の歴史は古く、また近年はインターネットによるリアル対局が早くから利用されています。「アメリカ・ゴ・コンGRES」「ヨーロッパ・ゴ・コンGRES」などは、世界中から参加する大規模な囲碁大会となっています。

また、アフリカでは、南アフリカ、マダガスカル、モロッコが囲碁の組織をもっています。これからは他のアフリカの国々にも囲碁ファンは増えていくことでしょう。

#### 学習課題

日本の伝統・文化を踏まえて、「囲碁」について次の二点からまとめよう。

(1) 囲碁と現代文化のかかわり

(2) 将棋との類似点・相違点

《参考文献・資料提供等》

・ 日本棋院 <http://www.nihonkin.or.jp/>